

# IGES-C

プロセッサー

MICRO CADAM (Windows) 対応  
操作手順書

株式会社 エーエスエー・システムズ

---

第 14 版 2014 年 9 月

Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標、または商標です。  
MICRO CADAM または MICRO CADAM Helix は、日本アイ・ビー・エム・サービス株式会社(ISC-J)  
が専用使用権を所有する登録商標です。  
Autodesk、AutoCAD は、米国オートデスク社およびその他の国における登録商標です。  
その他、記載されている会社名、商品名は、各社の商標および登録商標です。

この解説書は、プログラムの改良および記載内容の改善のために適宜変更されることがあります。  
この変更は、改訂版の発行によりお知らせします。

© 1987-1999 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Adobe, Acrobat, および Acrobat  
ロゴは、Adobe Systems Incorporated の商標(地域によっては登録商標)です。  
© Copyright 株式会社 エーエスエー・システムズ 1992-2014

## まえがき

このマニュアルは、MC Helix Design & Drafting とアプリケーション・プログラムとの間で、CAD データを相互に交換するためのインターフェース IGES-C プロセッサ(以降、IGES-C といいます)について解説したものです。

IGES-C は、MC Helix Design & Drafting の図面(以降、図面といいます)のデータを IGES ファイル(以降、IGES といいます)に変換し、また IGES を図面のデータに変換する機能をもっています。

なお、このマニュアルは、下記の 4 部構成になっています。

また、ネットワークライセンスの対話モード版(以降、対話モード版といいます)を購入された方は、対話モード版の欄を、ネットワークライセンスのバッチモード版(以降、バッチモード版といいます)を購入された方は、バッチモード版の欄を参照してください。

	対話モード版を購入	バッチモード版を購入
第 I 部 概要	○	○
第 II 部 対話モード版	○	
第 III 部 バッチモード版		○
第 IV 部 共通	○	○

# 目次

<b>第Ⅰ部 概要</b> .....	<b>1</b>
<b>1. 概要</b> .....	<b>2</b>
1) 特記事項.....	2
(1) 実行可能環境.....	2
(2) 使用上の注意事項.....	3
2) 機能概要.....	4
(1) 対話モード版.....	4
(2) バッチモード版.....	4
<b>第Ⅱ部 対話モード版</b> .....	<b>5</b>
<b>2. 環境設定ファイル</b> .....	<b>6</b>
1) 実行前の準備.....	6
(1) 環境設定ファイルの設定.....	6
<b>3. IGES ⇒ 図面変換手順</b> .....	<b>7</b>
1) 変換手順.....	7
(1) ワイルドカード検索手順.....	13
(2) 一時的な設定変更.....	14
2) 変換条件変更手順.....	15
(1) デフォルト(入力先)ディレクトリー変更手順.....	16
(2) デフォルト区画変更手順 (IGES ⇒ MC 図面変換のみ) .....	17
(3) デフォルトグループ変更手順 (IGES ⇒ MC 図面変換のみ) .....	17
(4) デフォルトユーザー変更手順 (IGES ⇒ MC 図面変換のみ) .....	18
(5) デフォルト(出力先)ディレクトリー変更手順 (IGES ⇒ OS ファイル変換のみ) ..	19
(6) その他変更手順.....	20
(7) 設定内容保存手順.....	23
3) 結果確認手順.....	24
<b>4. 図面 ⇒ IGES 変換手順</b> .....	<b>25</b>
1) 変換手順.....	25
(1) ワイルドカード検索手順.....	31

(2) 一時的な設定変更.....	32
2) 変換条件変更手順.....	33
(1) デフォルト区画変更手順 (MC 図面 ⇒ IGES 変換のみ) .....	34
(2) デフォルトグループ変更手順 (MC 図面 ⇒ IGES 変換のみ) .....	34
(3) デフォルトユーザー変更手順 (MC 図面 ⇒ IGES 変換のみ) .....	34
(4) デフォルト(出力先)ディレクトリー変更手順.....	34
(5) デフォルト(入力先)ディレクトリー変更手順 (OS ファイル ⇒ IGES 変換のみ) .	35
(6) その他変更手順 .....	36
(7) 設定内容保存手順.....	40
3) 結果確認手順.....	41
4) spcchr.tbl 設定変更手順.....	42
(1) IGES 名の代替文字変更手順 .....	42
<b>5. 設定項目詳細説明 .....</b>	<b>43</b>
1) 図面および IGES 設定項目事項 .....	43
(1) IGES ⇒ 図面変換 .....	43
(2) 図面 ⇒ IGES 変換 .....	45
2) その他設定項目事項 .....	47
(1) IGES ⇒ 図面変換 .....	47
(2) 図面 ⇒ IGES 変換 .....	51
3) オプション設定項目事項.....	56
(1) 図面 ⇒ IGES 変換 .....	56
<b>第Ⅲ部 バッチモード版 .....</b>	<b>57</b>
<b>6. IGES ⇒ 図面変換手順.....</b>	<b>58</b>
1) 実行前の準備.....	58
(1) システムファイルの設定 .....	59
(2) 図面指示ファイルの設定 .....	68
2) 実行手順.....	75
(1) パラメータ説明 .....	75
(2) 実行方法.....	76
3) 結果確認手順.....	81
(1) ログファイルの内容 .....	81
<b>7. 図面 ⇒ IGES 変換手順.....</b>	<b>82</b>
1) 実行前の準備.....	82

(1) システムファイルの設定 .....	83
(2) 図面指示ファイルの設定 .....	93
2) 実行手順 .....	101
(1) パラメータ説明 .....	101
(2) 実行方法 .....	102
3) 結果確認手順 .....	107
(1) ログファイルの内容 .....	107
<b>第IV部 共通 .....</b>	<b>108</b>
<b>8. エラーメッセージ説明 .....</b>	<b>109</b>
1) IGES ⇒ 図面変換 .....	109
2) 図面 ⇒ IGES 変換 .....	113
<b>9. 付録 .....</b>	<b>115</b>
1) 対応要素一覧表 .....	115
(1) IGES ⇒ 図面変換表 .....	115
(2) 図面 ⇒ IGES 変換表 .....	117
(3) カラー対応表 (IGES ⇒ 図面) .....	120
(4) カラー対応表 (図面 ⇒ IGES) .....	120
(5) 線種対応表 (IGES ⇒ 図面) .....	121
(6) 線種対応表 (図面 ⇒ IGES) .....	122
(7) 寸法矢印形状対応表 (IGES ⇒ 図面) .....	124
(8) 寸法矢印形状対応表 (図面 ⇒ IGES) .....	124
(9) 特殊記号変換表 (図面 ⇒ IGES) .....	125
(10) 注記(212)フォントコード (IGES ⇒ 図面) .....	126
(11) 注記(212)フォントコード (図面 ⇒ IGES) .....	126
2) 制約事項 .....	127
(1) IGES ⇒ 図面変換 .....	127
(2) 図面 ⇒ IGES 変換 .....	127
3) acciges.sys の設定 .....	128
4) igesenv.sys の設定 .....	130
5) トラブル調査依頼について .....	133

# 第 I 部 概要

---

---

## 1. 概要

### 1) 特記事項

#### (1) 実行可能環境

<b>MC ベースモジュール</b>	V3.18, V4R1, V4R2, V4R3, V5R1, V5R2 (20XX) ※お持ちの製品がどの MC バージョンに対応しているかは、CD-ROM をご覧ください。
<b>メモリー</b>	128MB 以上(推奨)*)
<b>仮想メモリーサイズ</b>	データにより異なる

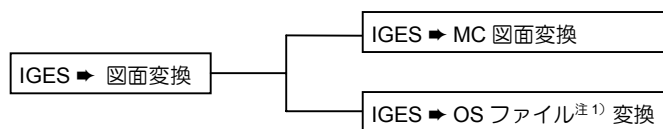
オペレーティングシステム
Windows 8.1 Pro
Windows 8 Pro
Windows 7 Professional
Windows Vista Business 以上
Windows Server 2012 R2
Windows Server 2012
Windows Server 2008 R2
Windows Server 2008
Windows Server 2003 R2
Windows Server 2003



## (2) 使用上の注意事項

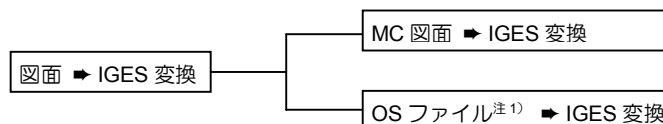
**IGES ➡ 図面変換<sup>注)</sup>**では、  
IGES のサイズ、数、要素により、必要なディスク空領域は異なります。

注) **IGES ➡ MC 図面変換**と **IGES ➡ OS ファイル<sup>注1)</sup>変換**を総称して、**IGES ➡ 図面変換**と呼びます。



**図面 ➡ IGES 変換<sup>注)</sup>**では、  
図面のサイズ、数、要素により、必要なディスク空領域は異なります。

注) **MC 図面 ➡ IGES 変換**と **OS ファイル<sup>注1)</sup> ➡ IGES 変換**を総称して、**図面 ➡ IGES 変換**と呼びます。



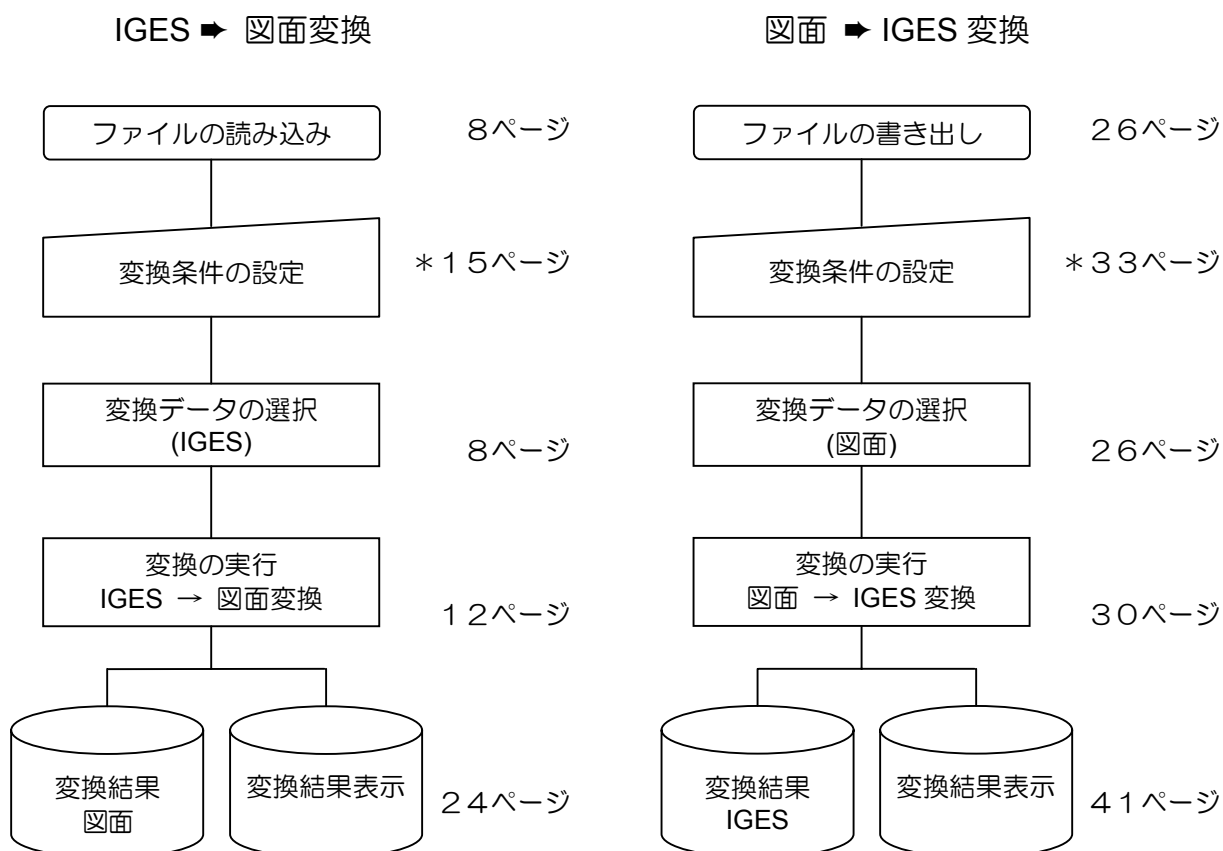
注 1) V4R3 以上用の IGES-C で対応します。

## 2) 機能概要

IGES-C は、MC Helix 付属の ACCESS core を使用して、図面と IGES とのデータ変換を行ないます。

操作の流れ(1 例)を以下に示します。

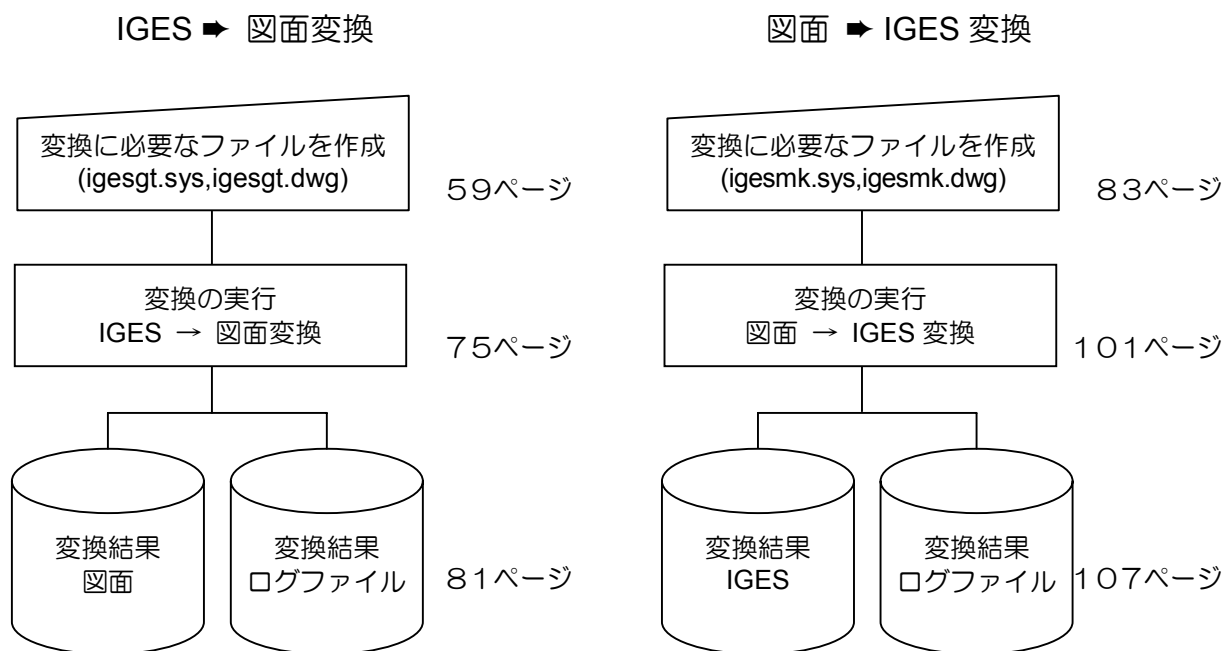
## (1) 対話モード版



\*) 変換条件の設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

操作の解説は、フローの右側のページ番号を参照してください。

## (2) バッチモード版



\*) 操作の解説は、フローの右側のページ番号を参照してください。

## 第Ⅱ部 対話モード版

---

---

## 2. 環境設定ファイル

### 1) 実行前の準備

起動時に必要なファイルを以下に示します。

・ `igesenv.sys` (環境設定ファイル)

#### (1) 環境設定ファイルの設定

##### a) ファイル概要

このファイルは、IGES-C 起動時に使用します。

##### b) ファイル設定内容

環境設定ファイルの 1 例を以下に示します。

<code>PRVUSE=NO</code>	-----	①
<code>PRVGRPUSR=CAD, TRAIN</code>	-----	②

#### (a) 設定内容(半角文字で設定します)

##### ① PRVUSE=【プリビリッジのログイン処理】

プリビリッジのログイン処理について設定します。

値	説明
NO	プリビリッジのログイン処理をしない。
YES	プリビリッジのログイン処理をする。

注) 必ずファイルは左詰めで入力し、途中でスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。

##### ② PRVGRPUSR=【プリビリッジのグループ名、ユーザー名】

プリビリッジで登録したグループ、ユーザーを設定します。

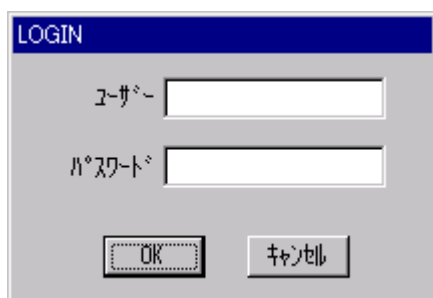
値	説明
グループ、ユーザー	設定したグループ、ユーザーでログイン処理をする。

注) プリビリッジのログイン処理をする場合のみ有効です。

### 3. IGES ⇒ 図面変換手順

#### 1) 変換手順

Windows の【スタート】から【プログラム】【ASA GROUP】内の【IGES-C】を選択して実行します。

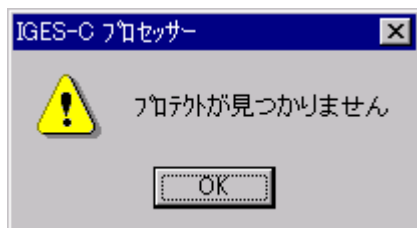


プリビリッジで登録したユーザーとパスワードをキー入力してください。

注) 環境設定ファイル(igesenv.sys)のプリビリッジのログイン処理の設定が“YES”の場合のみ、上記の画面を表示します。

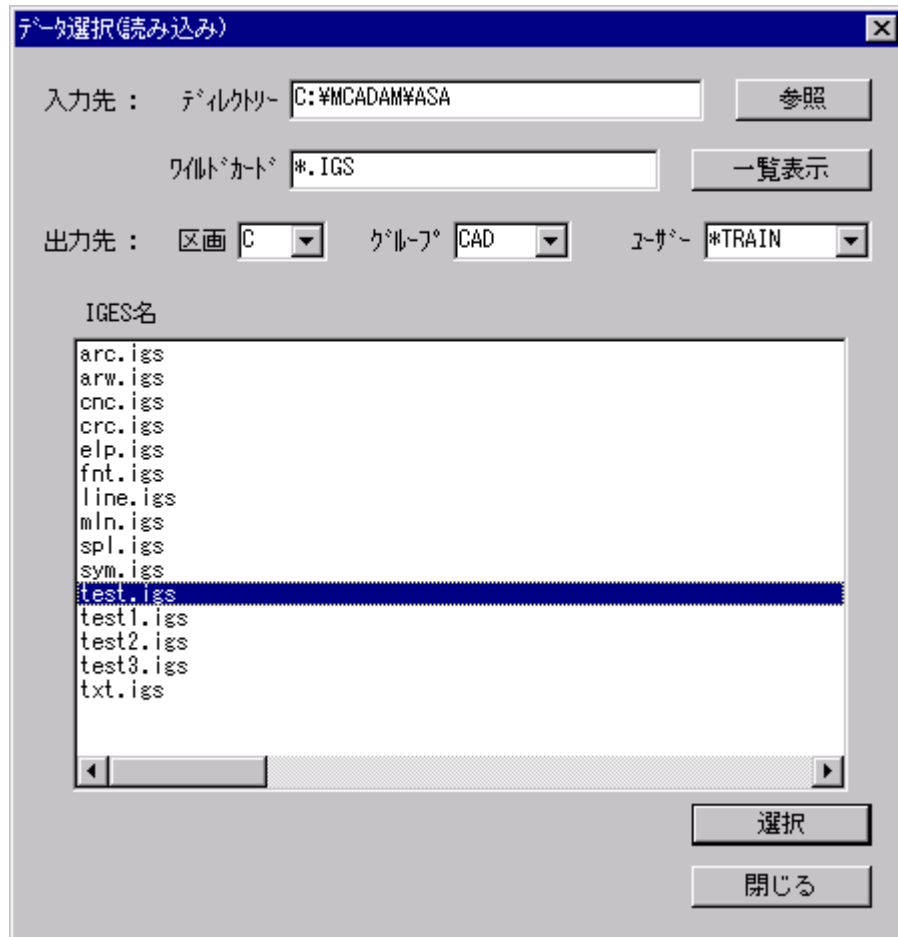


プロテクトをセットしていない場合、エラーメッセージを表示します。



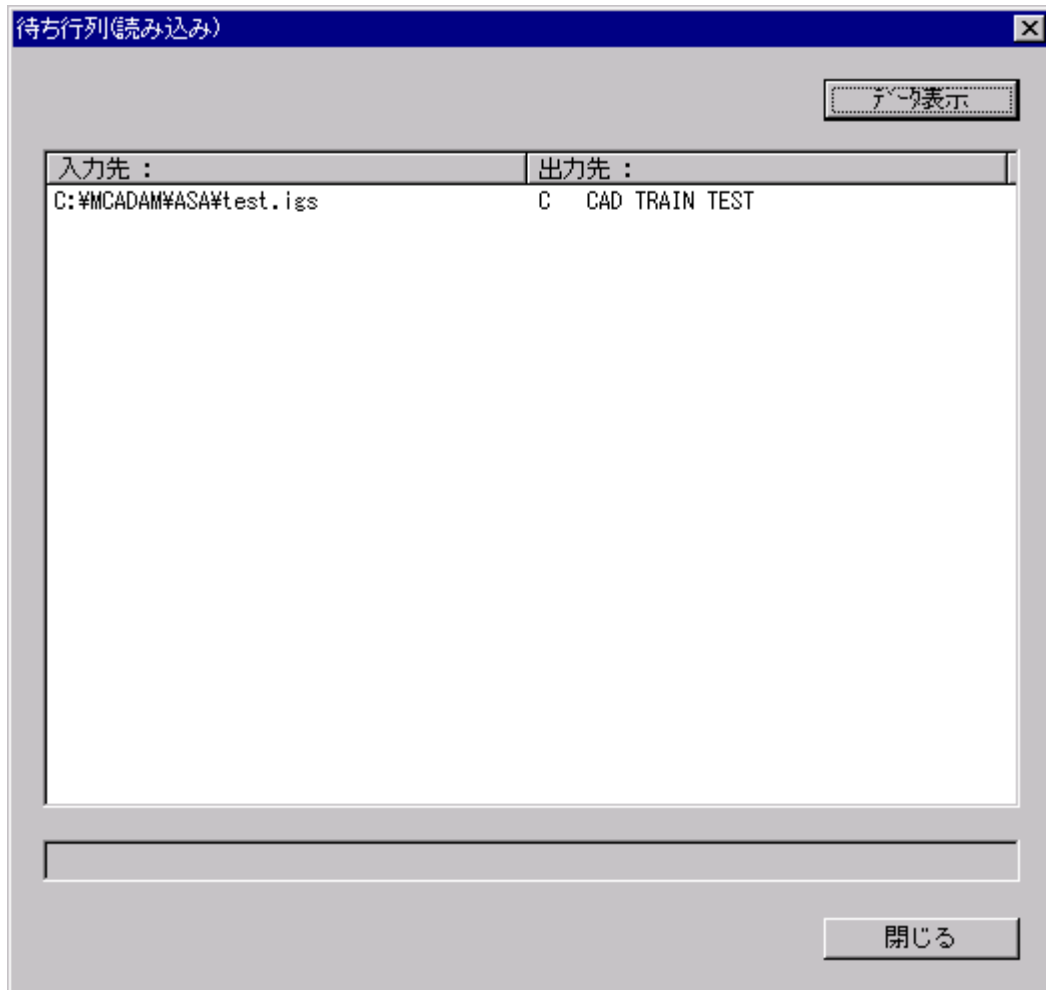
メニューの【ファイル変換】を選択し、【IGES ⇒ MC 図面】を選択します。  
待ち行列画面を表示した後、【データ表示】を押します。

注) IGES ⇒ OS ファイル変換の場合は、【IGES ⇒ OS ファイル】を選択します。



注) IGES ⇒ OS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

データ選択画面のリストボックスに、IGES の一覧を表示します。  
リストボックスに表示したファイル一覧の中から、変換対象となる IGES を選択し、  
【選択】を押します。  
複数選択することも可能です。  
選択が終わったら、【閉じる】を押します。



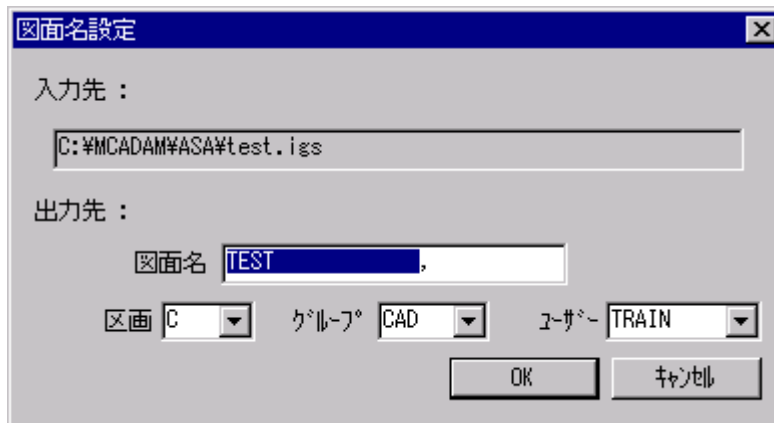
注) IGES ➔ OS ファイル変換の場合は、出力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:\MCADAM\CAD\test” になります。

ここで、選択した IGES 名を変換後の図面名(デフォルト)として待ち行列画面に表示します。

複数選択することも可能です。

また、図面名を変更する場合は、変換対象になっている IGES を選択します。



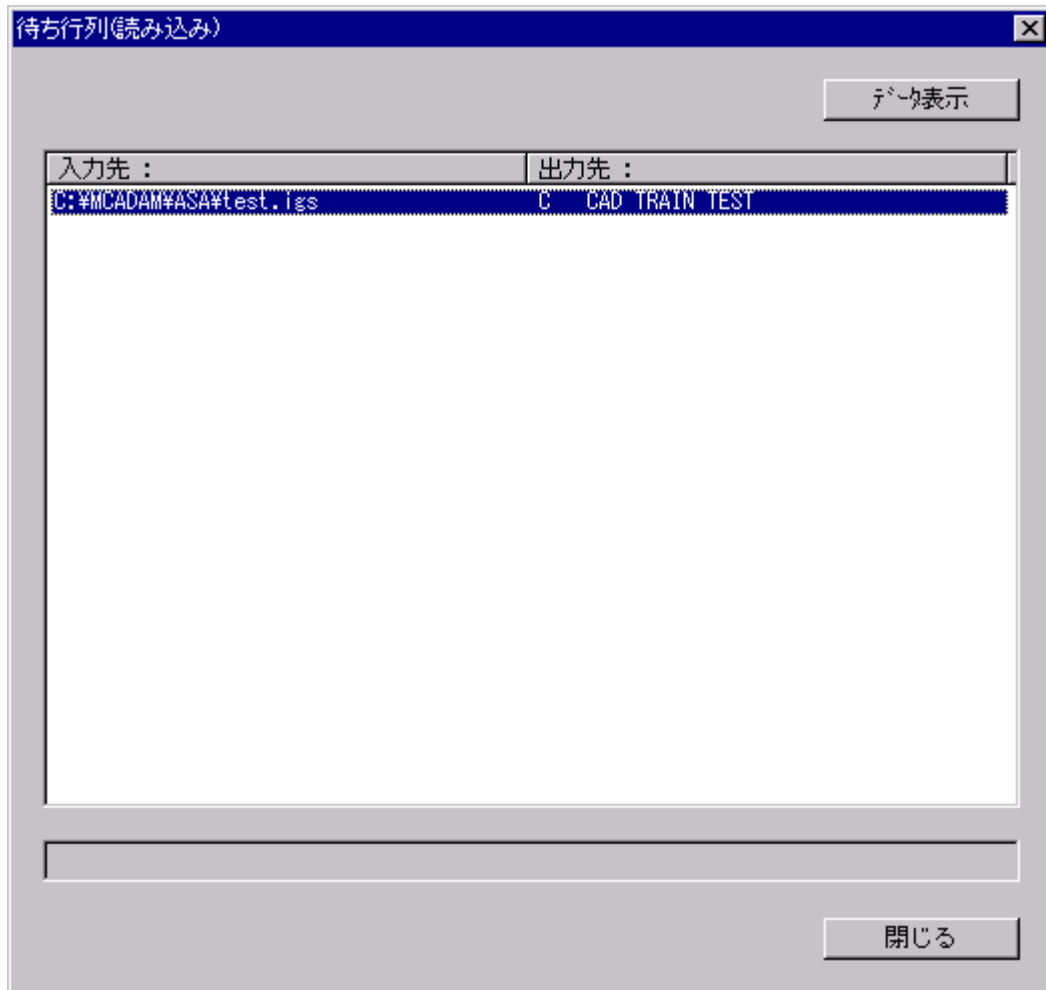


注) IGES ⇒ OS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

変換対象になっている IGES を選択すると、**図面名設定画面**を表示します。  
図面名をキー入力した後、**[OK]** を押します。

**[キャンセル]** を押した場合は、変換対象から除外します。

注) IGES ⇒ MC 図面変換の場合は、MC 図面名の区切り文字としてのカンマの最大数は 7 です。(分割可能なフィールドの最大数は 8)

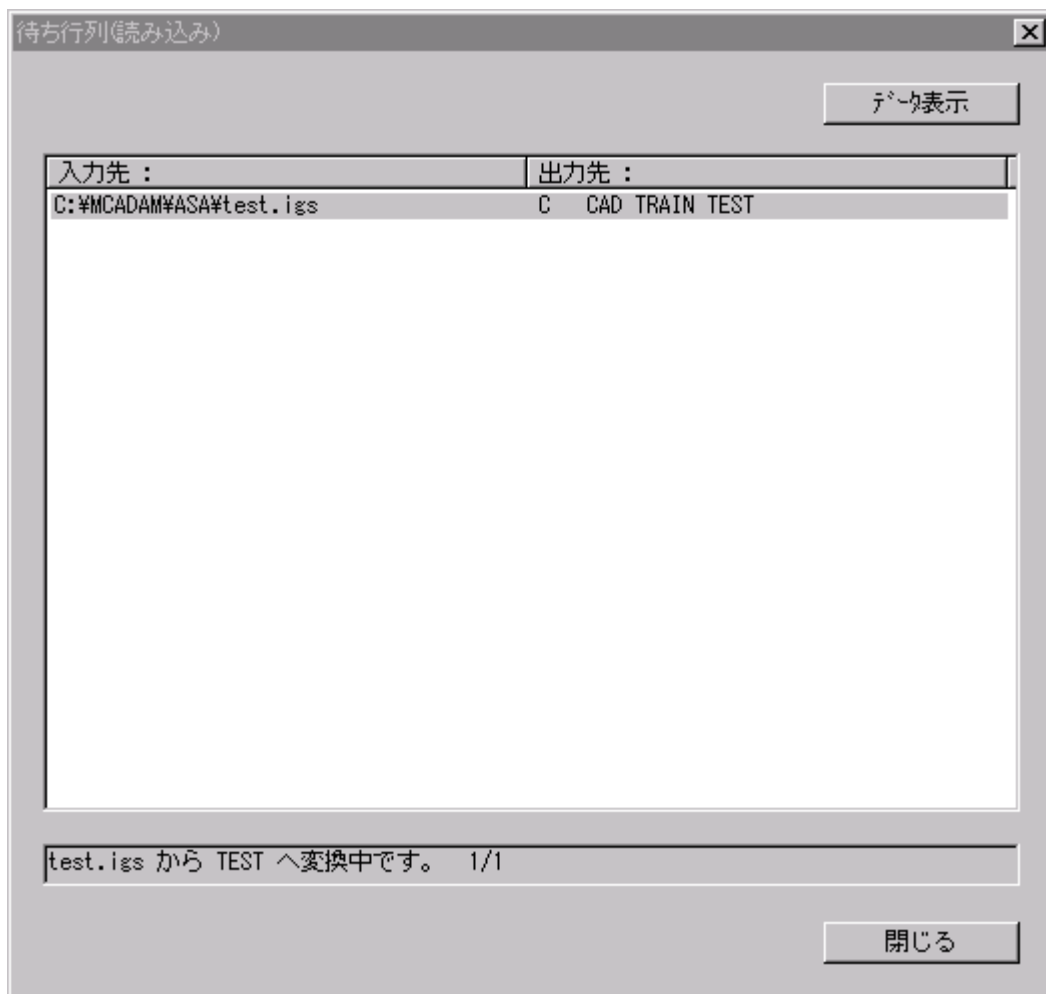


注) IGES ➔ OS ファイル変換の場合は、出力先 "C CAD TRAIN TEST" が "MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD¥test" になります。

設定した図面名を、上記のように表示します。

注) 大文字・小文字の区別は、OS により異なります。

変換処理の実行は、メニューの【実行】を選択し、【実行】を選択します。

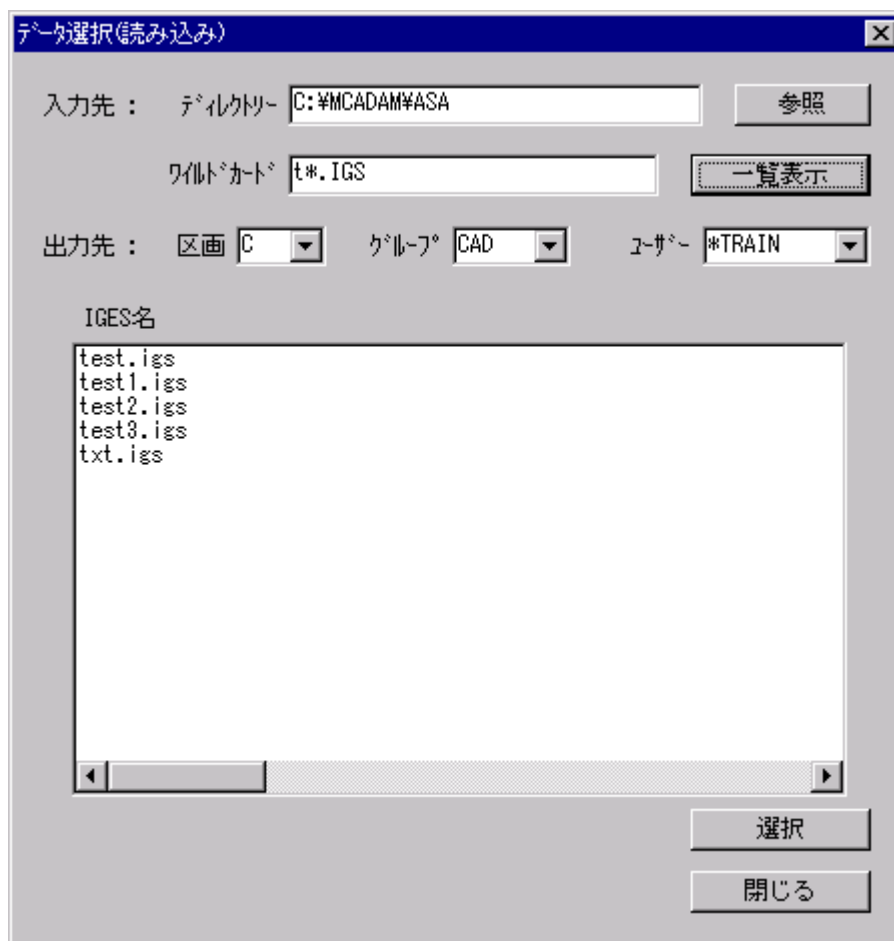


注) IGES ⇒ OS ファイル変換の場合は、出力先 "C CAD TRAIN TEST" が "MCLOCAL:C:\MCADAM\CAD\test" になります。

現在処理中の内容をリストボックスの下段、メッセージエリアに表示します。  
変換処理が全て終了すると、3. 3) 結果確認手順で説明する**変換結果画面**を表示します。

## (1) ワイルドカード検索手順

ワイルドカードをキー入力した後、**【一覧表示】** を押します。  
リストボックス内に、該当する IGES 名を表示します。



注) IGES ➔ OS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

注) ワイルドカードの拡張子は、**設定画面**で設定した拡張子が自動的に入ります。

## (2) 一時的な設定変更



注) IGES ➔ OS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

**データ選択画面で、ディレクトリー・区画・グループ・ユーザーが変更できます。**

各項目の変更手順は、3. 2) 変換条件変更手順を参照してください。

注) IGES ➔ OS ファイル変換の場合は、入力先ディレクトリーと出力先ディレクトリーが変更できます。

## 2) 変換条件変更手順

メニューの【設定メニュー】を選択し、【設定】を選択します。

注) IGES-C 起動直後の設定画面は、MC 図面 ⇒ IGES 変換になっています。したがって、メニューの【ファイル変換】の【IGES ⇒ MC 図面】の選択を先に行ってください。(OS ファイル ⇒ IGES 変換も同様)



注) IGES ⇒ OS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

ここで、現在のデフォルトの設定内容を上記のように表示します。

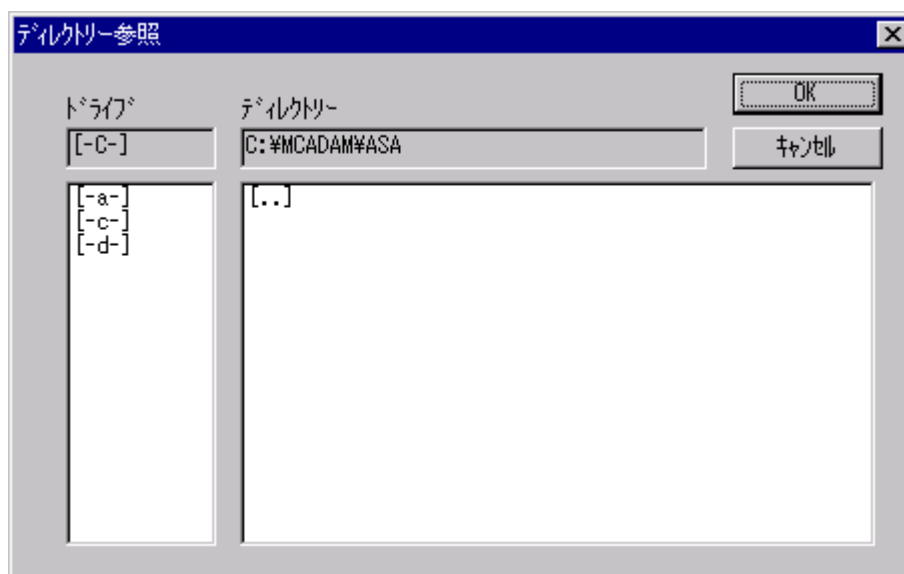
## (1) デフォルト(入力先)ディレクトリー変更手順

ディレクトリーの**入力域**を選択します。



ディレクトリーをキー入力します。

または、**[参照]** を押します。



ここで、**ディレクトリー参照画面**を表示します。  
変更したいドライブ、ディレクトリーを選択した後、**[OK]** を押します。

## (2) デフォルト区画変更手順 (IGES ⇒ MC 図面変換のみ)

区画のプルダウンメニューを選択します。



ここで、変更したい区画を選択します。

注) ファイルサーバーによる仮想区画を使用している場合は、処理時間が多少長くなります。

## (3) デフォルトグループ変更手順 (IGES ⇒ MC 図面変換のみ)

グループのプルダウンメニューを選択します。



ここで、変更したいグループを選択します。



## (4) デフォルトユーザー変更手順 (IGES ⇒ MC 図面変換のみ)

ユーザーのプルダウンメニューを選択します。

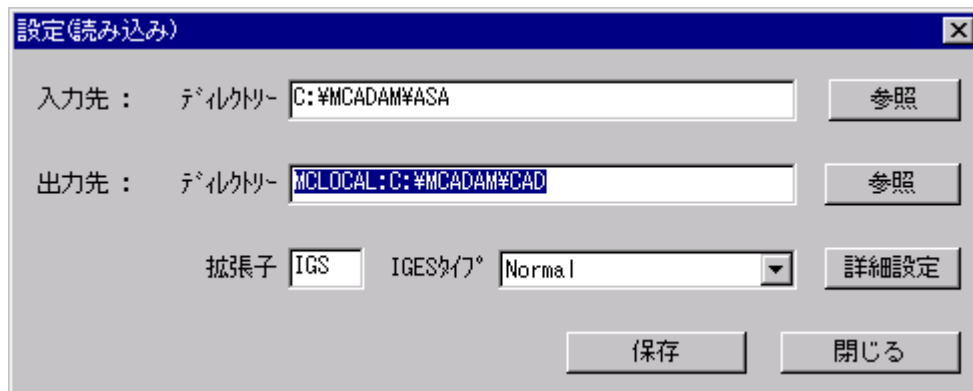


ここで、変更したいユーザーを選択します。

注) MC 図面が存在するユーザー名の先頭に(\*)を表示します。

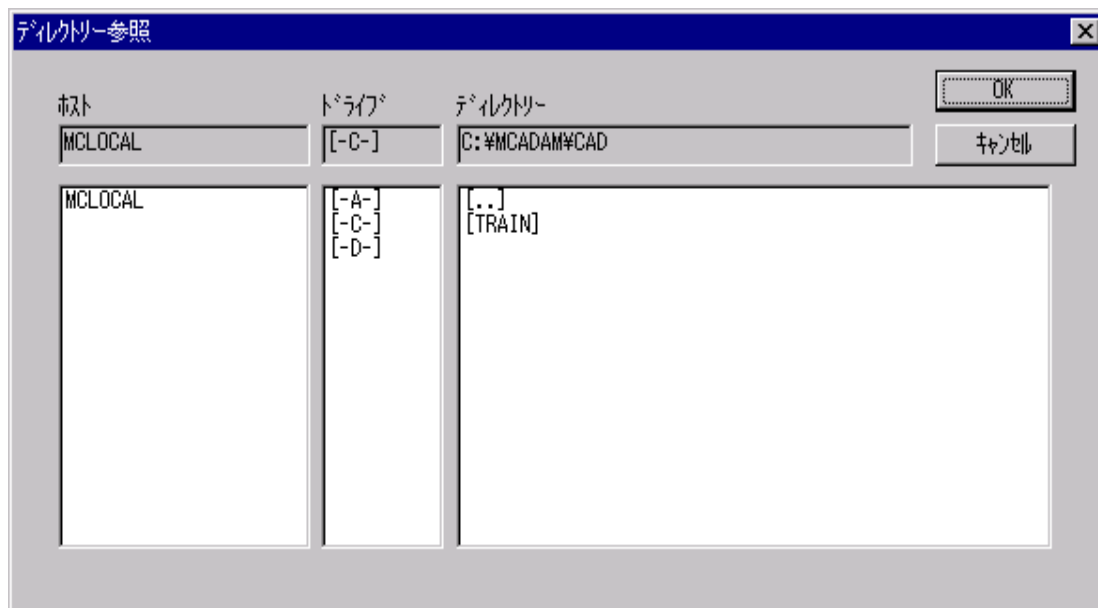
- (5) デフォルト(出力先)ディレクトリー変更手順 (IGES ⇒ OS ファイル変換のみ)

ディレクトリーの**入力域**を選択します。



ディレクトリーをキー入力します。

または、**[参照]** を押します。



ここで、**ディレクトリー参照画面**を表示します。

変更したいホスト、ドライブ、ディレクトリーを選択した後、**[OK]** を押します。

## (6) その他変更手順

【詳細設定】を押します。

選択している IGES タイプの設定内容を表示します。

設定内容の詳細は、5. 設定項目詳細説明を参照してください。

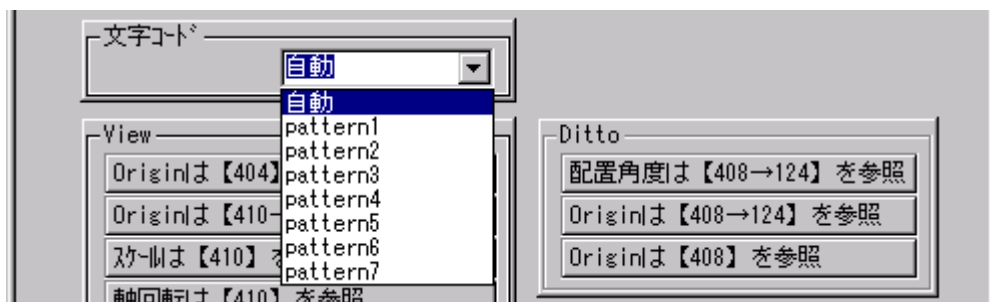
## a) 図面形式・寸法タイプ変更手順



上記の項目のうち、各項目でそれぞれ1つずつ選択します。

## b) 文字コード変更手順

文字コードのプルダウンメニューを選択します。

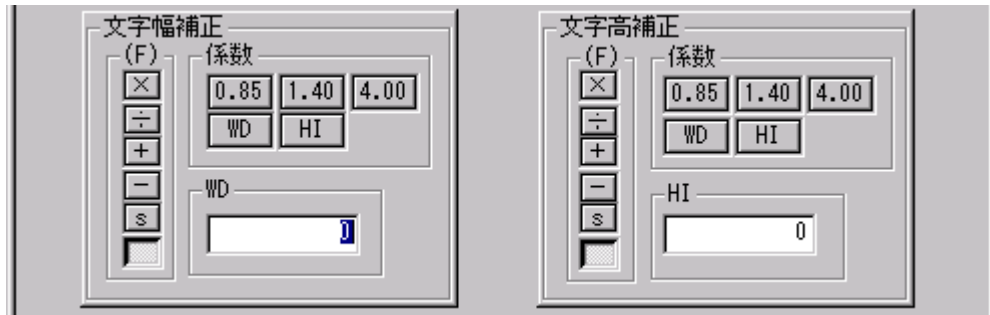


## c) View・Status flags・Ditto・Transformation matrix 変更手順



必要な項目を設定します。(複数選択可)

## d) 文字幅補正・文字高補正変更手順



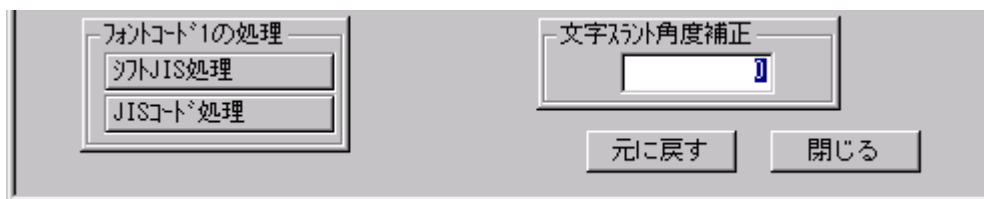
- (a) (F)設定  
計算式を選択します。[s] は、特殊処理です。
- (b) 係数設定  
文字幅・文字高の数値に係数を加えて計算する場合は、係数を選択します。  
[WD] を選択すると、WD 項目の数値で計算します。  
[HI] を選択すると、HI 項目の数値で計算します。
- (c) WD 設定  
WD 項目の入力域に任意の係数(数値×100)の値をキー入力します。
- (d) HI 設定  
HI 項目の入力域に任意の係数(数値×100)の値をキー入力します。

## e) フォントコード1の処理変更手順



必要な項目を設定します。(複数選択可)

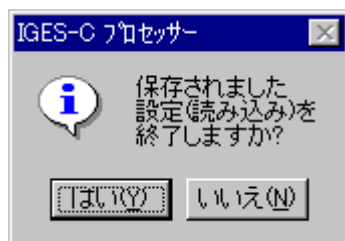
## f) 文字スラント角度補正変更手順



文字スラント角度をキー入力します。

## (7) 設定内容保存手順

【保存】を押します。



ここで、メッセージを表示します。  
設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

注) 設定画面と詳細設定画面の内容を保存します。

注) メニューの【ファイル変換】の【IGES ⇒ MC 図面】を選択して、設定画面を表示している場合、【閉じる】を押すと、IGES ⇒ MC 図面変換の一時的な設定になります。IGES-C が終了しない限り、一時的な設定は有効です。(IGES ⇒ OS ファイル変換も同様)

## 3) 結果確認手順

変換実行処理が終了すると、**変換結果画面**を表示します。また、メニューの【**結果**】を選択し、【**結果**】を選択した場合も、常時表示します。

注) IGES-C 起動直後の**変換結果画面**は、MC 図面 ➡ IGES 変換になっています。したがって、メニューの【**ファイル変換**】の【**IGES ⇒ MC 図面**】の選択を先に行ってください。(OS ファイル ➡ IGES 変換も同様)



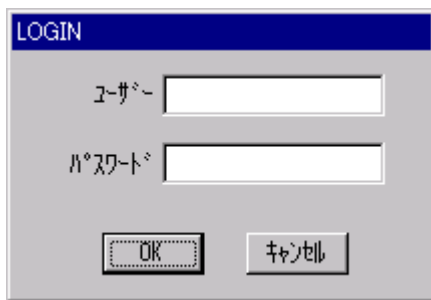
ここで、変換結果を上記のように表示します。

結果表示の内容については、8. エラーメッセージ説明を参照してください。

## 4. 図面 ⇒ IGES 変換手順

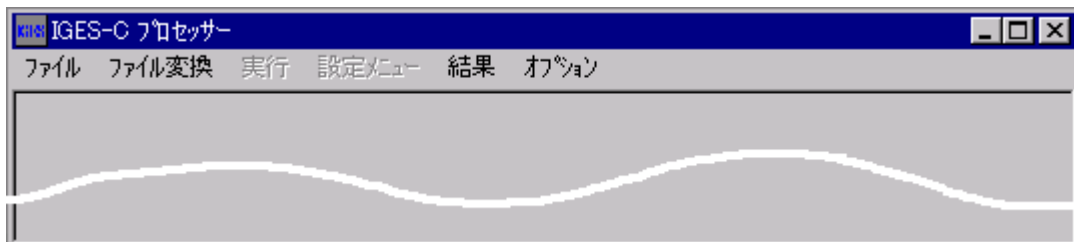
### 1) 変換手順

Windows の【スタート】から【プログラム】【ASA GROUP】内の【IGES-C】を選択して実行します。

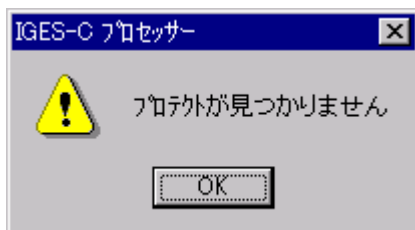


プリビレッジで登録したユーザーとパスワードをキー入力してください。

注) 環境設定ファイル(igesenv.sys)のプリビレッジのログイン処理の設定が“YES”の場合のみ、上記の画面を表示します。



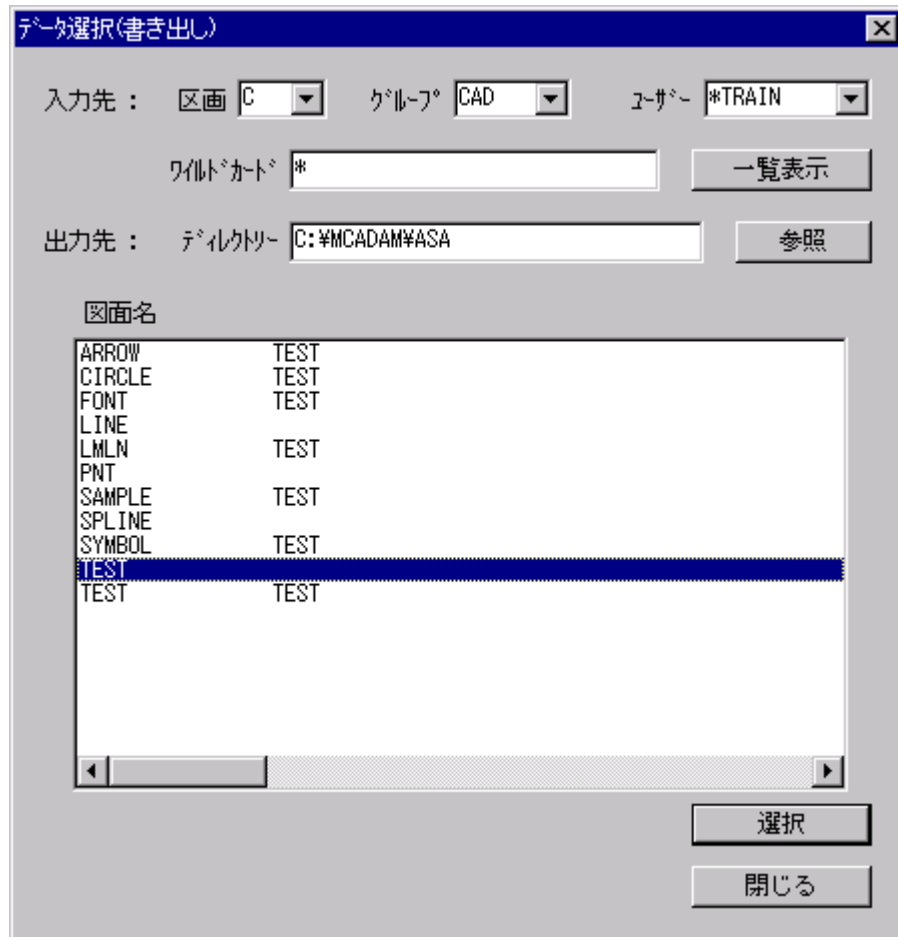
プロテクトをセットしていない場合、エラーメッセージを表示します。





メニューの【ファイル変換】を選択し、【MC 図面 ⇒ IGES】を選択します。  
待ち行列画面を表示した後、【データ表示】を押します。

注) OS ファイル ⇒ IGES 変換の場合は、【OS ファイル ⇒ IGES】を選択します。



注) OS ファイル ⇒ IGES 変換の場合は、入力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

データ選択画面のリストボックスに、図面の一覧を表示します。  
リストボックスに表示した図面一覧の中から、変換対象となる図面を選択し、【**選択**】を押します。  
複数選択することも可能です。  
選択が終わったら、【**閉じる**】を押します。



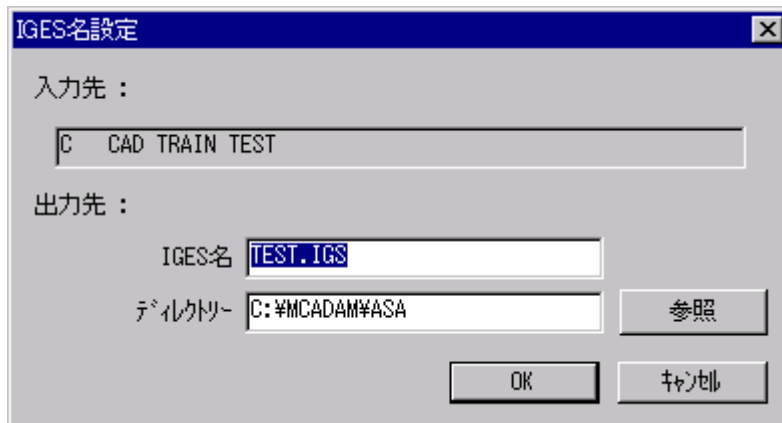
注) OS ファイル ▶ IGES 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD¥TEST” になります

ここで、選択した図面名を変換後の IGES 名(デフォルト)として**待ち行列画面**に表示します。

複数選択することも可能です。

また、IGES 名を変更する場合は、変換対象になっている図面を選択します。

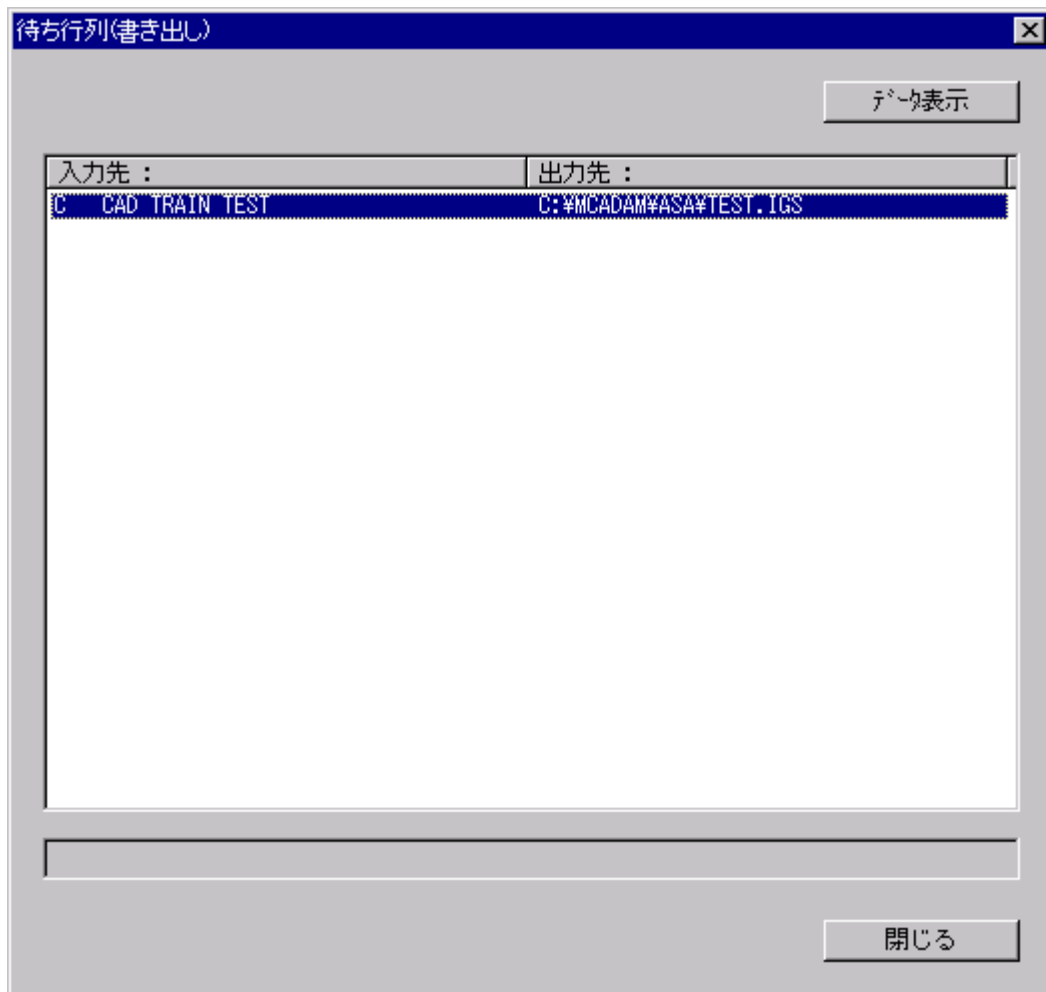
注) デフォルトの IGES 名は、spcchr.tbl の設定に依存します。詳細は、5. 3) (1) a) spcchr.tbl を参照してください。



注) OS ファイル ▶ IGES 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:\MCADAM\CAD\TEST” になります。

変換対象になっている図面を選択すると、**IGES 名設定画面**を表示します。  
IGES 名をキー入力した後、**[OK]** を押します。  
**[キャンセル]** を押した場合は、変換対象から除外します。

注) 入力できる IGES 名は、ピリオド(.), 拡張子を含め 32 桁までです。



注) OS ファイル ▶ IGES 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:\#MCADAM#CAD#TEST” になります。

設定した IGES 名を、上記のように表示します。

注) 大文字・小文字の区別は、OS により異なります。

UNIX のディスクを nfs マウントしている場合、そのドライブのファイルに対して、大文字・小文字の区別をします。

変換処理の実行は、メニューの【実行】を選択し、【実行】を選択します。



注) OS ファイル ▶ IGES 変換の場合は、入力先 "C CAD TRAIN TEST" が "MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD¥TEST" になります。

現在処理中の内容をリストボックスの下段、メッセージエリアに表示します。変換処理が全て終了すると、4. 3) 結果確認手順で説明する**変換結果画面**を表示します。

## (1) ワイルドカード検索手順

ワイルドカードをキー入力した後、**【一覧表示】** を押します。  
リストボックス内に、該当する図面名を表示します。



注) OS ファイル ➡ IGES 変換の場合は、入力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

注) MC 図面 ➡ IGES 変換の場合、ワイルドカードのフォーマットは、MC Helix のプリピリッジに登録した形式で、必ず区切り文字のカンマ( , )の数を合わせて入れてください。

## (2) 一時的な設定変更



注) OS ファイル ⇒ IGES 変換の場合は、入力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

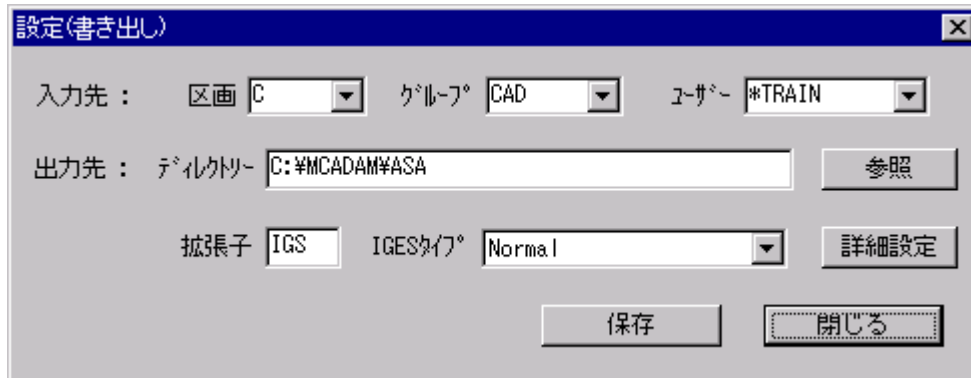
データ選択画面で、区画・グループ・ユーザー・ディレクトリーが変更できます。

各項目の変更手順は、4. 2) 変換条件変更手順を参照してください。

注) OS ファイル ⇒ IGES 変換の場合は、入力先ディレクトリーと出力先ディレクトリーが変更できます。

## 2) 変換条件変更手順

メニューの【設定メニュー】を選択し、【設定】を選択します。



注) OS ファイル ▶ IGES 変換の場合は、入力先 “区画 グループ ユーザー” が “ディレクトリー” になります。

ここで、現在のデフォルトの設定内容を上記のように表示します。



## (1) デフォルト区画変更手順 (MC 図面 ⇒ IGES 変換のみ)

区画のプルダウンメニューを選択します。  
IGES ➡ MC 図面変換と同様に一覧リストを表示します。

ここで、変更したい区画を選択します。

注) ファイルサーバーによる仮想区画を使用している場合は、処理時間が多少長くなります。

## (2) デフォルトグループ変更手順 (MC 図面 ⇒ IGES 変換のみ)

グループのプルダウンメニューを選択します。  
IGES ➡ MC 図面変換と同様に一覧リストを表示します。

ここで、変更したいグループを選択します。

## (3) デフォルトユーザー変更手順 (MC 図面 ⇒ IGES 変換のみ)

ユーザーのプルダウンメニューを選択します。  
IGES ➡ MC 図面変換と同様に一覧リストを表示します。

ここで、変更したいユーザーを選択します。

## (4) デフォルト(出力先)ディレクトリー変更手順

ディレクトリーの入力域を選択します。

ここで、ディレクトリーをキー入力します。

または、**[参照]** を押します。  
IGES ➡ 図面変換と同様に**ディレクトリー参照画面**を表示します。

ここで、変更したいドライブ、ディレクトリーを選択します。

- (5) デフォルト(入力先)ディレクトリー変更手順 (OS ファイル ⇒ IGES 変換のみ)

ディレクトリーの入力域を選択します。

ここで、ディレクトリーをキー入力します。

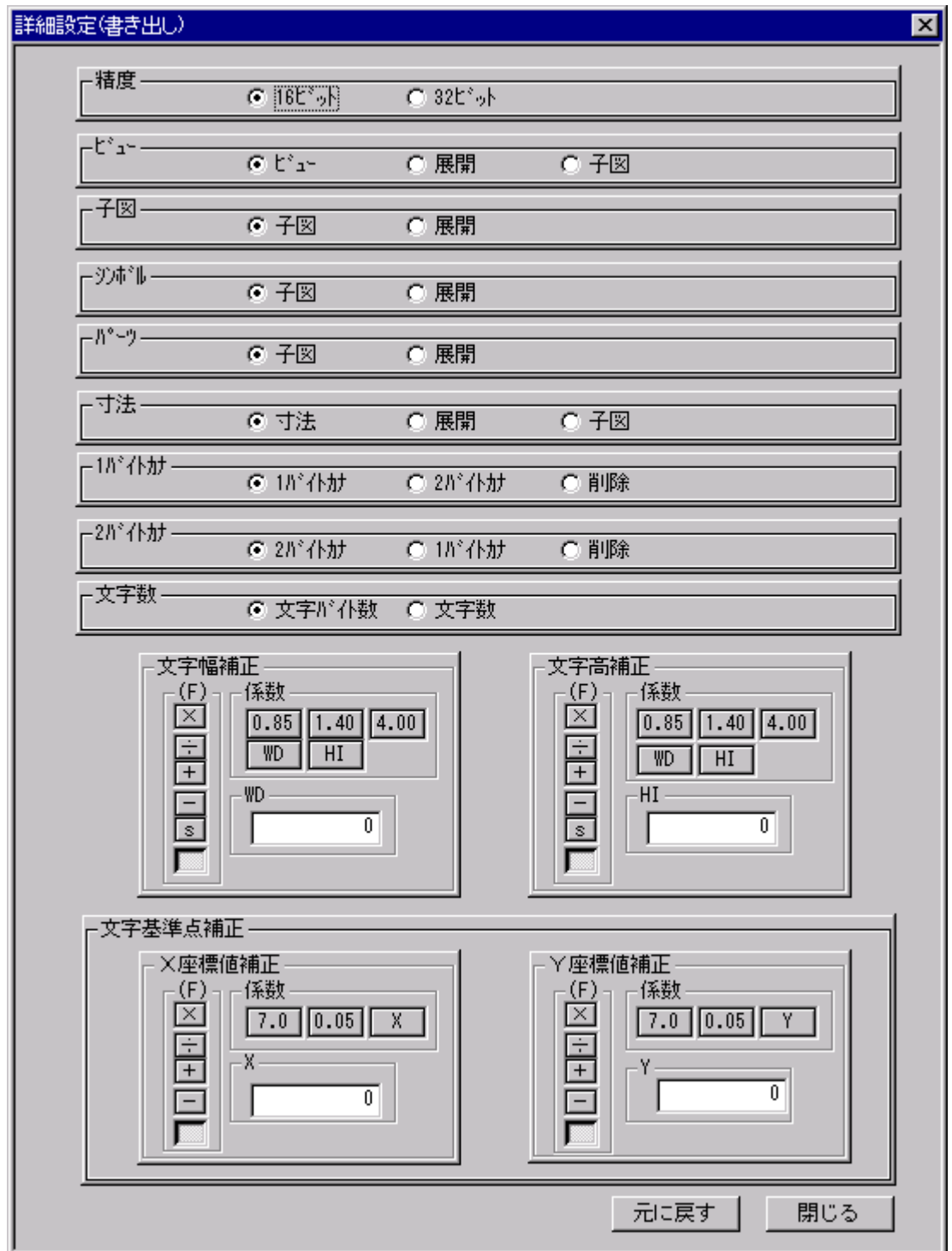
または、**【参照】** を押します。

IGES ➡ OS ファイル変換と同様に**ディレクトリー参照画面**を表示します。

ここで、変更したいホスト，ドライブ，ディレクトリーを選択します。

## (6) その他変更手順

【詳細設定】を押します。  
 選択している IGES タイプの設定内容を表示します。



設定内容の詳細は、5. 設定項目詳細説明を参照してください。

- a) 精度・ビュー・子図・シンボル・パーツ・寸法・1バイトカナ・2バイトカナ・文字数変更手順

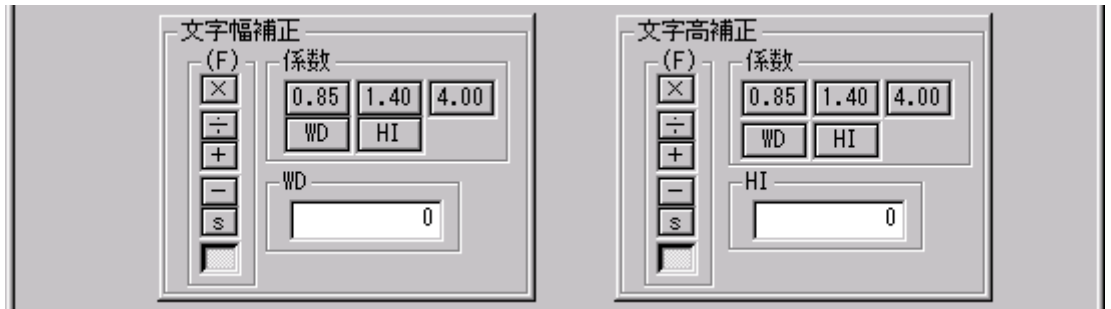


The image shows a dialog box titled "詳細設定(書き出し)" with a close button in the top right corner. The dialog contains several rows of radio button options:

- 精度**:  16ビット  32ビット
- ビュー**:  ビュー  展開  子図
- 子図**:  子図  展開
- シンボル**:  子図  展開
- パーツ**:  子図  展開
- 寸法**:  寸法  展開  子図
- 1バイトカナ**:  1バイトカナ  2バイトカナ  削除
- 2バイトカナ**:  2バイトカナ  1バイトカナ  削除
- 文字数**:  文字1バイト数  文字数

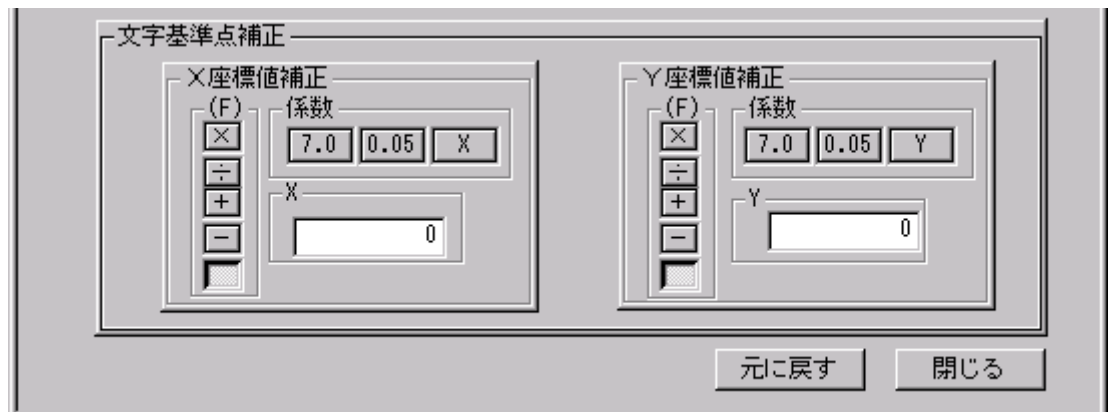
上記の項目のうち、各項目でそれぞれ1つずつ選択します。

## b) 文字幅補正・文字高補正変更手順



- (a) (F)設定  
計算式を選択します。[s] は、特殊処理です。
- (b) 係数設定  
文字幅・文字高の数値に係数を加えて計算する場合は、係数を選択します。  
[WD] を選択すると、WD 項目の数値で計算します。  
[HI] を選択すると、HI 項目の数値で計算します。
- (c) WD 設定  
WD 項目の**入力域**に任意の係数(数値×100)の値をキー入力します。
- (d) HI 設定  
HI 項目の**入力域**に任意の係数(数値×100)の値をキー入力します。

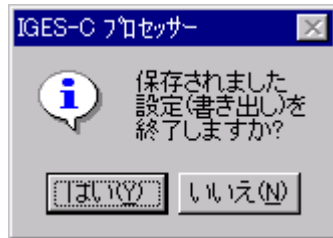
## c) 文字基準点補正(X座標値補正・Y座標値補正)変更手順



- (a) (F)設定  
計算式を選択します。
- (b) 係数設定  
X座標値・Y座標値の数値に係数を加えて計算する場合は、係数を選択します。  
 [X] を選択すると、X項目の数値で計算します。  
 [Y] を選択すると、Y項目の数値で計算します。
- (c) X設定  
X項目の**入力域**に任意の係数(数値×100)の値をキー入力します。
- (d) Y設定  
Y項目の**入力域**に任意の係数(数値×100)の値をキー入力します。

## (7) 設定内容保存手順

【保存】を押します。



ここで、メッセージを表示します。  
設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

注) 設定画面と詳細設定画面の内容を保存します。

注) メニューの【ファイル変換】の【MC 図面 ⇒ IGES】を選択して、設定画面を表示している場合、【閉じる】を押すと、MC 図面 ⇒ IGES 変換の一時的な設定になります。IGES-C が終了しない限り、一時的な設定は有効です。(OS ファイル ⇒ IGES 変換も同様)

## 3) 結果確認手順

変換実行処理が終了すると、**変換結果画面**を表示します。また、メニューの【**結果**】を選択し、【**結果**】を選択した場合も、常時表示します。



ここで、変換結果を上記のように表示します。

結果表示の内容については、8. エラーメッセージ説明を参照してください。



## 4) spcchr.tbl 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【spcchr.tbl】を選択します。  
現在のデフォルトの spcchr.tbl 設定内容を表示します。

## (1) IGES 名の代替文字変更手順

変更したい代替文字を**選択リスト**から選択してください。



置換前の文字と置換後の文字の制御コードをキー入力してください。  
保存する場合は、【登録】を押します。ただし、登録済みの場合は、この操作は無効です。  
また、削除する場合は、【削除】を押します。

spcchr.tbl 設定内容の詳細は、5. 設定項目詳細説明を参照してください。

## 5. 設定項目詳細説明

### 1) 図面および IGES 設定項目事項

#### (1) IGES ⇒ 図面変換

- a) 出力先：区画 (IGES ⇒ MC 図面変換のみ)  
MC 図面の出力先**区画**を設定します。
- b) 出力先：グループ (IGES ⇒ MC 図面変換のみ)  
MC 図面の出力先**グループ**を設定します。
- c) 出力先：ユーザー (IGES ⇒ MC 図面変換のみ)  
MC 図面の出力先**ユーザー**を設定します。
- d) 出力先：ディレクトリー (IGES ⇒ OS ファイル変換のみ)  
OS ファイルの出力先**ディレクトリー**を設定します。

ホスト	15 文字以内で設定(半角文字のみ)
ディレクトリー	(251-ホストの文字数-OS ファイル名の文字数)の文字数以内で設定

- e) 入力先：ディレクトリー  
IGES の入力先**ディレクトリー**を設定します。

ディレクトリー	(251-IGES 名の文字数)の文字数以内で設定
---------	---------------------------

- f) 拡張子  
IGES の**拡張子**を 3 文字以内で設定します。

- g) IGES タイプ  
IGES の形式を指定します。

Normal	デフォルト設定。
AutoCAD	AutoCAD で出力した IGES を図面に作成する。
HICAD	HICAD で出力した IGES を図面に作成する。
ANVIL4000	ANVIL 4000 で出力した IGES を図面に作成する。
ED_Draw	ED_Draw で出力した IGES を図面に作成する。
CADDS V4	CADDS V4 で出力した IGES を図面に作成する。
InterGraph	InterGraph で出力した IGES を図面に作成する。
Caelum	Caelum で出力した IGES を図面に作成する。
NADAMS	NADAMS で出力した IGES を図面に作成する。
AdvanceCAD	AdvanceCAD で出力した IGES を図面に作成する。
ME10	ME10 で出力した IGES を図面に作成する。
CAE-2DR4.1	CAE-2DR4.1 で出力した IGES を図面に作成する。
CAE-2DR4.3	CAE-2DR4.3 で出力した IGES を図面に作成する。
UNICAD	UNICAD で出力した IGES を図面に作成する。
CADDS V5	CADDS V5 で出力した IGES を図面に作成する。
I-deas	I-deas で出力した IGES を図面に作成する。
ANVIL5000	ANVIL 5000 で出力した IGES を図面に作成する。
CAE-MINI	CAE-MINI で出力した IGES を図面に作成する。
CATIA V4	CATIA V4 で出力した IGES を図面に作成する。

注) a) ~ c) 、g) の項はキーボードからの入力はできません。

## (2) 図面 ⇒ IGES 変換

- a) 入力先：区画 (MC 図面 ⇒ IGES 変換のみ)  
MC 図面の入力先**区画**を設定します。
- b) 入力先：グループ (MC 図面 ⇒ IGES 変換のみ)  
MC 図面の入力先**グループ**を設定します。
- c) 入力先：ユーザー (MC 図面 ⇒ IGES 変換のみ)  
MC 図面の入力先**ユーザー**を設定します。
- d) 入力先ディレクトリー (OS ファイル ⇒ IGES 変換のみ)  
OS ファイルの入力先**ディレクトリー**を設定します。

ホスト	15 文字以内で設定(半角文字のみ)
ディレクトリー	(251-ホストの文字数-OS ファイル名の文字数)の文字数以内で設定

- e) 出力先：ディレクトリー  
IGES の出力先**ディレクトリー**を設定します。

ディレクトリー	(251-IGES 名の文字数)の文字数以内で設定
---------	---------------------------

- f) 拡張子  
IGES の**拡張子**を 3 文字以内で設定します。

- g) IGES タイプ  
IGES の形式を指定します。

Normal	デフォルト設定。
AutoCAD	AutoCAD 形式で作成する。
HICAD	HICAD 形式で作成する。
ANVIL4000	ANVIL 4000 形式で作成する。
ED_Draw	ED_Draw 形式で作成する。
CADDS V4	CADDS V4 形式で作成する。
InterGraph	InterGraph 形式で作成する。
Caelum	Caelum 形式で作成する。
NADAMS	NADAMS 形式で作成する。
AdvanceCAD	AdvanceCAD 形式で作成する。
ME10	ME10 形式で作成する。
CAE-2DR4.1	CAE-2DR4.1 形式で作成する。
CAE-2DR4.3	CAE-2DR4.3 形式で作成する。
UNICAD	UNICAD 形式で作成する。
CADDS V5	CADDS V5 形式で作成する。
I-deas	I-deas 形式で作成する。
ANVIL5000	ANVIL 5000 形式で作成する。
CAE-MINI	CAE-MINI 形式で作成する。
CATIA V4	CATIA V4 形式で作成する。

注) a) ~ c) 、g) の項はキーボードからの入力はできません。

## 2) その他設定項目事項

## (1) IGES ⇒ 図面変換

## a) 図面形式

V3	作成する図面の精度を V3 形式にする。
V2S	作成する図面の精度を単精度にする。
V2D	作成する図面の精度を倍精度にする。

## b) 寸法タイプ

擬尺	寸法値を擬尺として作成する。
実寸	寸法値を実寸として作成する。

## c) 文字コード

自動	自動で作成する。
Pattern1	フォントコード 1 の処理に依存する。
Pattern2	フォントコード 1 の処理に依存する。
Pattern3	ANVIL 形式で作成する。
Pattern4	ME10 形式で作成する。
Pattern5	NADAMS 形式で作成する。
Pattern6	UNICAD 形式で作成する
Pattern7	Caelum 形式で作成する。

## d) View

Origin は【404】を参照	Origin は、[404]を参照して作成する。
Origin は【410→124】を参照	Origin は、[410→124]を参照して作成する。
スケールは【410】を参照	スケールは、[410]を参照して作成する。
軸回転は【410】を参照	軸回転は、[410]を参照して作成する。

## e) Status flags

Blank status を参照	Blank status を参照して作成する。
Subordinate entity switch を参照	Subordinate entity switch を参照して作成する。

## f) Ditto

配置角度は【408→124】を参照	配置角度は、[408→124]を参照して作成する。
Origin は【408→124】を参照	Origin は、[408→124]を参照して作成する。
Origin は【408】を参照	Origin は、[408]を参照して作成する。

## g) Transformation matrix

要素所有 Matrix を参照	要素所有 Matrix を参照して作成する。
親要素所有 Matrix を参照	親要素所有 Matrix を参照して作成する。
VIEW 所有 Matrix を参照	VIEW 所有 Matrix を参照して作成する。

## h) 文字幅補正

計算式	係数	説明
s		特殊補正を行って作成する。
×	0.85	(文字幅の数値×0.85)の補正を行って作成する。
÷		(文字幅の数値÷0.85)の補正を行って作成する。
+		(文字幅の数値+0.85)の補正を行って作成する。
−		(文字幅の数値−0.85)の補正を行って作成する。
×	1.40	(文字幅の数値×1.40)の補正を行って作成する。
÷		(文字幅の数値÷1.40)の補正を行って作成する。
+		(文字幅の数値+1.40)の補正を行って作成する。
−		(文字幅の数値−1.40)の補正を行って作成する。
×	4.00	(文字幅の数値×4.00)の補正を行って作成する。
÷		(文字幅の数値÷4.00)の補正を行って作成する。
+		(文字幅の数値+4.00)の補正を行って作成する。
−		(文字幅の数値−4.00)の補正を行って作成する。
×	WD	(文字幅の数値×WD 値)の補正を行って作成する。
÷		(文字幅の数値÷WD 値)の補正を行って作成する。
+		(文字幅の数値+WD 値)の補正を行って作成する。
−		(文字幅の数値−WD 値)の補正を行って作成する。
×	HI	(文字幅の数値×HI 値)の補正を行って作成する。
÷		(文字幅の数値÷HI 値)の補正を行って作成する。
+		(文字幅の数値+HI 値)の補正を行って作成する。
−		(文字幅の数値−HI 値)の補正を行って作成する。
WD		任意の係数(数値×100)を設定する。

例) 2 という係数を設定する場合は、200 と設定してください。



## i) 文字高補正

計算式	係数	説明
s		特殊補正を行って作成する。
×	0.85	(文字高の数値×0.85)の補正を行って作成する。
÷		(文字高の数値÷0.85)の補正を行って作成する。
+		(文字高の数値+0.85)の補正を行って作成する。
-		(文字高の数値-0.85)の補正を行って作成する。
×	1.40	(文字高の数値×1.40)の補正を行って作成する。
÷		(文字高の数値÷1.40)の補正を行って作成する。
+		(文字高の数値+1.40)の補正を行って作成する。
-		(文字高の数値-1.40)の補正を行って作成する。
×	4.00	(文字高の数値×4.00)の補正を行って作成する。
÷		(文字高の数値÷4.00)の補正を行って作成する。
+		(文字高の数値+4.00)の補正を行って作成する。
-		(文字高の数値-4.00)の補正を行って作成する。
×	WD	(文字高の数値×WD 値)の補正を行って作成する。
÷		(文字高の数値÷WD 値)の補正を行って作成する。
+		(文字高の数値+WD 値)の補正を行って作成する。
-		(文字高の数値-WD 値)の補正を行って作成する。
×	HI	(文字高の数値×HI 値)の補正を行って作成する。
÷		(文字高の数値÷HI 値)の補正を行って作成する。
+		(文字高の数値+HI 値)の補正を行って作成する。
-		(文字高の数値-HI 値)の補正を行って作成する。
HI		任意の係数(数値×100)を設定する。

例) 2 という係数を設定する場合は、200 と設定してください。

## j) フォントコード 1 の処理

シフト JIS 処理	シフト JIS 処理する。
JIS コード処理	JIS コード処理する。

## k) 文字スラント角度補正

文字スラント角度を度数で設定します。

## (2) 図面 ⇒ IGES 変換

## a) 精度

16 ビット	作成する IGES の精度を 16 ビットにする。
32 ビット	作成する IGES の精度を 32 ビットにする。

## b) ビュー

ビュー	ビューをビューとして作成する。
展開	ビューを要素展開して作成する。
子図	ビューを子図として作成する。

## c) 子図

子図	子図を子図として作成する。
展開	子図を要素展開して作成する。

## d) シンボル

子図	シンボルを子図として作成する。
展開	シンボルを要素展開して作成する。

## e) パーツ

子図	パーツを子図として作成する。
展開	パーツを要素展開して作成する。

## f) 寸法

寸法	寸法を寸法として作成する。
展開	寸法を要素展開して作成する。
子図	寸法を子図として作成する。

## g) 1バイトカナ

1バイトカナ	元のデータのまま1バイト文字で作成する。
2バイトカナ	1バイト文字を、2バイト文字で作成する。
削除	1バイトカナを削除して作成する。

## h) 2バイトカナ

2バイトカナ	元のデータのまま2バイト文字で作成する。
1バイトカナ	2バイト文字の英数文字を1バイト文字にし、その他の文字を“*”に置き換えて作成する。
削除	2バイトカナを削除して作成する。

## i) 文字数

文字バイト数	文字バイト数として作成する。
文字数	文字数として作成する。

## j) 文字幅補正

計算式	係数	説明
s		特殊補正を行って作成する。
×	0.85	(文字幅の数値×0.85)の補正を行って作成する。
÷		(文字幅の数値÷0.85)の補正を行って作成する。
+		(文字幅の数値+0.85)の補正を行って作成する。
-		(文字幅の数値-0.85)の補正を行って作成する。
×	1.40	(文字幅の数値×1.40)の補正を行って作成する。
÷		(文字幅の数値÷1.40)の補正を行って作成する。
+		(文字幅の数値+1.40)の補正を行って作成する。
-		(文字幅の数値-1.40)の補正を行って作成する。
×	4.00	(文字幅の数値×4.00)の補正を行って作成する。
÷		(文字幅の数値÷4.00)の補正を行って作成する。
+		(文字幅の数値+4.00)の補正を行って作成する。
-		(文字幅の数値-4.00)の補正を行って作成する。
×	WD	(文字幅の数値×WD 値)の補正を行って作成する。
÷		(文字幅の数値÷WD 値)の補正を行って作成する。
+		(文字幅の数値+WD 値)の補正を行って作成する。
-		(文字幅の数値-WD 値)の補正を行って作成する。
×	HI	(文字幅の数値×HI 値)の補正を行って作成する。
÷		(文字幅の数値÷HI 値)の補正を行って作成する。
+		(文字幅の数値+HI 値)の補正を行って作成する。
-		(文字幅の数値-HI 値)の補正を行って作成する。
WD		任意の係数(数値×100)を設定する。

例) 2 という係数を設定する場合は、200 と設定してください。

## k) 文字高補正

計算式	係数	説明
s		特殊補正を行って作成する。
×	0.85	(文字高の数値×0.85)の補正を行って作成する。
÷		(文字高の数値÷0.85)の補正を行って作成する。
+		(文字高の数値+0.85)の補正を行って作成する。
−		(文字高の数値−0.85)の補正を行って作成する。
×	1.40	(文字高の数値×1.40)の補正を行って作成する。
÷		(文字高の数値÷1.40)の補正を行って作成する。
+		(文字高の数値+1.40)の補正を行って作成する。
−		(文字高の数値−1.40)の補正を行って作成する。
×	4.00	(文字高の数値×4.00)の補正を行って作成する。
÷		(文字高の数値÷4.00)の補正を行って作成する。
+		(文字高の数値+4.00)の補正を行って作成する。
−		(文字高の数値−4.00)の補正を行って作成する。
×	WD	(文字高の数値×WD 値)の補正を行って作成する。
÷		(文字高の数値÷WD 値)の補正を行って作成する。
+		(文字高の数値+WD 値)の補正を行って作成する。
−		(文字高の数値−WD 値)の補正を行って作成する。
×	HI	(文字高の数値×HI 値)の補正を行って作成する。
÷		(文字高の数値÷HI 値)の補正を行って作成する。
+		(文字高の数値+HI 値)の補正を行って作成する。
−		(文字高の数値−HI 値)の補正を行って作成する。
HI		任意の係数(数値×100)を設定する。

例) 2 という係数を設定する場合は、200 と設定してください。

## 1) 文字基準点補正

## X 座標値補正

計算式	係数	説明
×	7.0	(X 座標値の数値×7.0)の補正を行って作成する。
÷		(X 座標値の数値÷7.0)の補正を行って作成する。
+		(X 座標値の数値+7.0)の補正を行って作成する。
−		(X 座標値の数値−7.0)の補正を行って作成する。
×	0.05	(X 座標値の数値×0.05)の補正を行って作成する。
÷		(X 座標値の数値÷0.05)の補正を行って作成する。
+		(X 座標値の数値+0.05)の補正を行って作成する。
−		(X 座標値の数値−0.05)の補正を行って作成する。
×	X	(X 座標値の数値×X 値)の補正を行って作成する。
÷		(X 座標値の数値÷X 値)の補正を行って作成する。
+		(X 座標値の数値+X 値)の補正を行って作成する。
−		(X 座標値の数値−X 値)の補正を行って作成する。
X		任意の係数(数値×100)を設定する。

例) 2 という係数を設定する場合は、200 と設定してください。

## Y 座標値補正

計算式	係数	説明
×	7.0	(Y 座標値の数値×7.0)の補正を行って作成する。
÷		(Y 座標値の数値÷7.0)の補正を行って作成する。
+		(Y 座標値の数値+7.0)の補正を行って作成する。
−		(Y 座標値の数値−7.0)の補正を行って作成する。
×	0.05	(Y 座標値の数値×0.05)の補正を行って作成する。
÷		(Y 座標値の数値÷0.05)の補正を行って作成する。
+		(Y 座標値の数値+0.05)の補正を行って作成する。
−		(Y 座標値の数値−0.05)の補正を行って作成する。
×	Y	(Y 座標値の数値×Y 値)の補正を行って作成する。
÷		(Y 座標値の数値÷Y 値)の補正を行って作成する。
+		(Y 座標値の数値+Y 値)の補正を行って作成する。
−		(Y 座標値の数値−Y 値)の補正を行って作成する。
Y		任意の係数(数値×100)を設定する。

例) 2 という係数を設定する場合は、200 と設定してください。

## 3) オプション設定項目事項

## (1) 図面 ⇒ IGES 変換

## a) spcchr.tbl

このファイルは、デフォルトの IGES 名を 20 桁にするため、もしくは、Windows で使用禁止文字を他の文字に置き換えるために使用します。

注) 登録できる総数は、100 件です。

## (a) 置換前の文字

置換前の文字を制御コード<sup>注1)</sup>を半角英数字で設定します。

注 1) 制御コードは 8 進または 10 進または 16 進で入力します。

・ 8 進の場合	
1 文字目	：“0” を設定
2 文字目	：“1~7” を設定
3 文字目~	：“0~7” を設定
・ 10 進の場合	
1 文字目	：“1~9” を設定
2 文字目~	：“0~9” を設定
・ 16 進の場合	
1 文字目	：“0” を設定
2 文字目	：“x” または “X” を設定
3 文字目	：“1~F” を設定
4 文字目~	：“0~F” を設定

## (b) 置換後の文字

置換後の文字を制御コード<sup>注2)</sup>を半角英数字で設定します。

注 2) 制御コードは 8 進または 10 進または 16 進で入力します。

・ 8 進の場合	
1 文字目	：“0” を設定
2 文字目~	：“0~7” を設定
・ 10 進の場合	
1 文字目~	：“0~9” を設定
・ 16 進の場合	
1 文字目	：“0” を設定
2 文字目	：“x” または “X” を設定
3 文字目~	：“0~F” を設定

# 第Ⅲ部 バッチモード版

---

---



## 6. IGES ⇒ 図面変換手順

### 1) 実行前の準備

IGES ▶ 図面変換は、次の項目をファイルおよびパラメータで設定します。

- ・ 区画
- ・ グループ
- ・ ユーザー
- ・ OS ファイルのパス
- ・ 図面名
- ・ その他の設定項目

変換に必要なファイルを以下に示します。これらのサンプルファイルは、IGES-C 導入先(MC 導入ドライブ¥MCADAM¥asa)に格納されています。

- ・ *igesgt.sys* (システムファイル)
- ・ *igesgt.dwg* (図面指示ファイル)

注) 各ファイルの名称はデフォルトです。*igesgt.sys* *igesgt.dwg* は、実行方法により任意のファイル名に変更できます。

## (1) システムファイルの設定

## a) ファイル概要

このファイルは、IGES ➡ 図面変換時のデフォルトとして使用します。変換状況に合わせて各項目の設定を決めてファイルを作成してください。  
 また、①～④、⑥～⑨は、図面指示ファイルの設定を優先します。  
 詳細は、6. 1) (2) システムファイルの設定を使用する例を参照してください。

## b) ファイル設定内容

システムファイルの 1 例を以下に示します。

KUKAKU=C	-----	①
GROUP=CAD	-----	②
USER=TRAIN	-----	③
DIR=C:\MCADAM\ASA	-----	④
XXX=IGS	-----	⑤
CAD_SYSTEM=0	-----	⑥
LIMIT=0	-----	⑦
DIMSTR=0	-----	⑧
CODE=-1	-----	⑨
VIEW=-1	-----	⑩
STATS=-1	-----	⑪
MATRX=-1	-----	⑫
WIDTH=-1	-----	⑬
FNTWD=-1	-----	⑭
HIGHT=-1	-----	⑮
FNTHI=-1	-----	⑯
FONT=-1	-----	⑰
FNTSL=-1	-----	⑱
OSDIR=MCLOCAL:C:\MCADAM\CAD	-----	⑲
DWGFL=C:\MCADAM\ASA\igesgt.dwg	-----	⑳
LOGFL=C:\MCADAM\ASA\igesgt.log	-----	㉑

(a) 設定内容(①～③と⑤～⑩)は英数半角文字で設定します)

① KUKAKU=【区画】

MC 図面の出力先区画を設定します。

V3.18～V4R3 の場合は、1 文字以内で区画を設定してください。

V5R1, V5R2 の場合は、4 文字以内で区画を設定してください。

② GROUP=【グループ】

MC 図面の出力先グループを設定します。

4 文字以内でグループを設定してください。

③ USER=【ユーザー】

MC 図面の出力先ユーザーを設定します。

6 文字以内でユーザーを設定してください。

④ DIR=【ディレクトリー】

IGES の入力先ディレクトリーを設定します。

---

ディレクトリー (251-IGES 名の文字数)の文字数以内で設定

---

⑤ XXX=【拡張子】

IGES の拡張子を設定します。

拡張子を 3 文字以内で設定してください。

- ⑥ CAD\_SYSTEM=【ファイルタイプ】  
IGES の形式を設定します。

値	説明
0	デフォルト設定。
1	AutoCAD で出力した IGES を図面に作成する。
2	HICAD で出力した IGES を図面に作成する。
3	ANVIL 4000 で出力した IGES を図面に作成する。
4	ED_Draw で出力した IGES を図面に作成する。
5	CADDS V4 で出力した IGES を図面に作成する。
6	InterGraph で出力した IGES を図面に作成する。
7	Caelum で出力した IGES を図面に作成する。
8	NADAMS で出力した IGES を図面に作成する。
9	AdvanceCAD で出力した IGES を図面に作成する。
10	ME10 で出力した IGES を図面に作成する。
11	CAE-2DR4.1 で出力した IGES を図面に作成する。
12	CAE-2DR4.3 で出力した IGES を図面に作成する。
13	UNICAD で出力した IGES を図面に作成する。
14	CADDS V5 で出力した IGES を図面に作成する。
15	I-deas で出力した IGES を図面に作成する。
16	ANVIL 5000 で出力した IGES を図面に作成する。
17	CAE-MINI で出力した IGES を図面に作成する。
18	CATIA V4 で出力した IGES を図面に作成する。

- ⑦ LIMIT=【図面形式】  
図面形式を設定します。

値	説明
0	作成する図面の精度を V3 形式にする。
1	作成する図面の精度を単精度にする。
2	作成する図面の精度を倍精度にする。

- ⑧ DIMSTR=【寸法タイプ】  
寸法タイプの扱いを設定します。

値	説明
0	寸法値を擬尺として作成する。
1	寸法値を実寸として作成する。

## ⑨ CODE=【文字コード】

文字コードの扱いを設定します。

値	説明
-1	自動で作成する。
0	フォントコード 1 の扱いに依存する。
1	ANVIL 形式で作成する。
2	ME10 形式で作成する。
3	NADAMS 形式で作成する。
4	UNICAD 形式で作成する
5	Caelum 形式で作成する。

## ⑩ VIEW=【VIEW】

VIEW の扱いを設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。

値	説明
1	Origin は、[404]を参照して作成する。
2	Origin は、[410→124]を参照して作成する。
4	スケールは、[410]を参照して作成する。
8	軸回転は、[410]を参照して作成する。

この設定は、各設定項目を組み合わせることができます。(複数選択可)  
 組み合わせる場合は、各項目の設定値を合計したものを設定してください。(ただし、-1 を除く)

例) 設定値 1 と 2 の設定項目を組み合わせる場合は、“VIEW=3” と設定してください。

## ⑪ STATS= 【Status flags】

Stats flags の扱いを設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。
1	Blank status を参照して作成する
2	Subordinate entity switch を参照して作成する。

この設定は、各設定項目を組み合わせることができます。(複数選択可)  
 組み合わせて設定する場合は、各項目の設定値を合計したものを設定してください。(ただし、-1 を除く)

例) 設定値 1 と 2 の設定項目を組み合わせる場合は、“STATS=3” と設定してください。

## ⑫ MATRX= 【Ditto &amp; Transformation matrix】

Ditto & Transformation matrix の扱いを設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。
1	要素所有 Matrix を参照して作成する。
2	親要素所有 Matrix を参照して作成する。
4	VIEW 所有 Matrix を参照して作成する。
8	配置角度は、[408→124]を参照して作成する。
16	Origin は、[408→124]を参照して作成する。
32	Origin は、[408]を参照して作成する。

この設定は、各設定項目を組み合わせることができます。(複数選択可)  
 組み合わせて設定する場合は、各項目の設定値を合計したものを設定してください。(ただし、-1 を除く)

例) 設定値 1 と 2 の設定項目を組み合わせる場合は、“MATRX=3” と設定してください。

## ⑬ WIDTH=【計算式と係数】

文字幅補正の計算式と係数を設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。
16	特殊補正を行って作成する。
33	(文字幅の数値×0.85)の補正を行って作成する。
34	(文字幅の数値÷0.85)の補正を行って作成する。
36	(文字幅の数値+0.85)の補正を行って作成する。
40	(文字幅の数値-0.85)の補正を行って作成する。
65	(文字幅の数値×1.40)の補正を行って作成する。
66	(文字幅の数値÷1.40)の補正を行って作成する。
68	(文字幅の数値+1.40)の補正を行って作成する。
72	(文字幅の数値-1.40)の補正を行って作成する。
129	(文字幅の数値×4.00)の補正を行って作成する。
130	(文字幅の数値÷4.00)の補正を行って作成する。
132	(文字幅の数値+4.00)の補正を行って作成する。
136	(文字幅の数値-4.00)の補正を行って作成する。
257	(文字幅の数値×FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
258	(文字幅の数値÷FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
260	(文字幅の数値+FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
264	(文字幅の数値-FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
513	(文字幅の数値×FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
514	(文字幅の数値÷FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
516	(文字幅の数値+FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
520	(文字幅の数値-FNTHI の数値)の補正を行って作成する。

## ⑭ FNTWD=【係数】

任意の係数(数値×100)を設定します。

例) 2 という係数を設定する場合は、200 と設定してください。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。

## ⑮ HIGHT=【計算式と係数】

文字高補正の計算式と係数を設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。
16	特殊補正を行って作成する。
33	(文字高の数値×0.85)の補正を行って作成する。
34	(文字高の数値÷0.85)の補正を行って作成する。
36	(文字高の数値+0.85)の補正を行って作成する。
40	(文字高の数値-0.85)の補正を行って作成する。
65	(文字高の数値×1.40)の補正を行って作成する。
66	(文字高の数値÷1.40)の補正を行って作成する。
68	(文字高の数値+1.40)の補正を行って作成する。
72	(文字高の数値-1.40)の補正を行って作成する。
129	(文字高の数値×4.00)の補正を行って作成する。
130	(文字高の数値÷4.00)の補正を行って作成する。
132	(文字高の数値+4.00)の補正を行って作成する。
136	(文字高の数値-4.00)の補正を行って作成する。
257	(文字高の数値×FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
258	(文字高の数値÷FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
260	(文字高の数値+FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
264	(文字高の数値-FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
513	(文字高の数値×FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
514	(文字高の数値÷FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
516	(文字高の数値+FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
520	(文字高の数値-FNTHI の数値)の補正を行って作成する。

## ⑯ FNTHI=【係数】

任意の係数(数値×100)を設定します。

例) 2 という係数を設定する場合は、200 と設定してください。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。



## ⑰ FONT=【フォントコード 1】

フォントコード 1 の扱いを設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。
1	シフト JIS 処理する。
2	JIS コード処理する。

この設定は、各設定項目を組み合わせることができます。(複数選択可) 組み合わせで設定する場合は、各項目の設定値を合計したものを設定してください。(ただし、-1 を除く)

例) 設定値 1 と 2 の設定項目を組み合わせる場合は、“FONT=3” と設定してください。

## ⑱ FNTSL=【文字スラント角度】

文字スラント角度を度数で設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。

## ⑲ OSDIR=【OS ファイルのパス】

OS ファイルの出力先を設定します。

OS ファイルの出力先をホスト、絶対パスで設定してください。

ホスト	15 文字以内で設定(半角文字のみ)
ディレクトリー	(249-ホストの文字数-OS ファイル名の文字数)の文字数以内で設定

## ⑳ DWGFL=【図面指示ファイル】

使用する図面指示ファイルを設定します。

図面指示ファイルを絶対パスとファイル名で設定してください。

絶対パスとファイル名	249 文字以内で設定
------------	-------------

## ② LOGFL=【ログファイル】

ログファイルを設定します。

ログファイルを絶対パスとファイル名で設定してください。

---

**絶対パスとファイル名** ※ 249文字以内で設定

---

注) 必ずファイルは左詰めで入力し、途中にスペースは入力しないでください。

1行に1項目のみ入力できます。

## (2) 図面指示ファイルの設定

## a) ファイル概要

このファイルは、IGES ➡ 図面変換時に使用します。変換状況に合わせて各項目の設定を決めてファイルを作成してください。

ここの設定は、一時的に設定を変更して変換する場合、もしくは、一括変換する場合に使用してください。

ここで、以下の場合はシステムファイルの設定を使用します。

・区画	設定を省略
・グループ	設定を省略
・ユーザー	設定を省略
・OS ファイルのパス	設定を省略
・IGES のパス	設定を省略
・⑦～⑩の値	99 を設定

## b) ファイル設定内容

図面指示ファイルの 1 例を以下に示します。

- ・ MC 図面名形式を有効にする場合

0001C	CAD	TRAIN	TEST	IGES
①	②	③	④	⑤
0001C:¥MCADAM¥ASA¥test.igs				
①	⑥			
0001000000-1				
①	⑦	⑧	⑨	⑩

- ・ OS ファイル名形式を有効にする場合

A001MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD¥TEST.MCD			
⑪			⑫
A001C:¥MCADAM¥ASA¥test.igs			
⑪			⑥
A001000000-1			
⑪	⑦	⑧	⑨⑩

(a) 設定内容

- ① 連番を設定します。

桁	説明
1~4	連番を設定する。

1つのIGESに対して1つの連番を設定します。(4桁固定)  
複数IGESを変換する場合は、各IGES毎の番号を設定してください。

- ② MC 図面の出力先区画を設定します。

V3.18~V4R3の場合は、次のように設定してください。

桁	説明
5	区画を設定する。
6~8	ブランクを入力する。

V5R1, V5R2の場合は、次のように設定してください。

桁	説明
5~8	区画を設定する。

4文字に満たない場合は、ブランクを入力してください。

- ③ MC 図面の出力先グループを設定します。

桁	説明
9~12	グループを設定する。

4文字に満たない場合は、ブランクを入力してください。

- ④ MC 図面の出力先ユーザーを設定します。

桁	説明
13~18	ユーザーを設定する。

6 文字に満たない場合は、ブランクを入力してください。

- ⑤ 作成する MC 図面名を設定します。

桁	説明
19~38	カンマ( , )なしの 20 文字で MC 図面名を設定する。

- ⑥ 変換元となる IGES 名を絶対パスとファイル名で設定します。

桁	説明
5~	251 文字以内で IGES 名を設定する。

- ⑦ IGES の形式を設定します。

5, 6 桁目に、IGES タイプのフラグを設定してください。

値	説明
00	デフォルト設定。
01	AutoCAD で出力した IGES を図面に作成する。
02	HICAD で出力した IGES を図面に作成する。
03	ANVIL 4000 で出力した IGES を図面に作成する。
04	ED_Draw で出力した IGES を図面に作成する。
05	CADDS V4 で出力した IGES を図面に作成する。
06	InterGraph で出力した IGES を図面に作成する。
07	Caelum で出力した IGES を図面に作成する。
08	NADAMS で出力した IGES を図面に作成する。
09	AdvanceCAD で出力した IGES を図面に作成する。
10	ME10 で出力した IGES を図面に作成する。
11	CAE-2DR4.1 で出力した IGES を図面に作成する。
12	CAE-2DR4.3 で出力した IGES を図面に作成する。
13	UNICAD で出力した IGES を図面に作成する。
14	CADDS V5 で出力した IGES を図面に作成する。
15	I-deas で出力した IGES を図面に作成する。
16	ANVIL 5000 で出力した IGES を図面に作成する。
17	CAE-MINI で出力した IGES を図面に作成する。
18	CATIA V4 で出力した IGES を図面に作成する。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑧ 図面形式を設定します。  
7, 8 桁目に、図面形式のフラグを設定してください。

値	説明
00	作成する図面の精度を V3 形式にする。
01	作成する図面の精度を単精度にする。
02	作成する図面の精度を倍精度にする。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑨ 寸法タイプの扱いを設定します。  
9, 10 桁目に、寸法タイプの扱いのフラグを設定してください。

値	説明
00	寸法値を擬尺として作成する。
01	寸法値を実寸として作成する。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑩ 文字コードの扱いを設定します。  
11, 12 桁目に、文字コードの扱いのフラグを設定してください。

値	説明
-1	自動で作成する。
00	フォントコード 1 の扱いに依存する。
01	ANVIL 形式で作成する。
02	ME10 形式で作成する。
03	NADAMS 形式で作成する。
04	UNICAD 形式で作成する
05	Caelum 形式で作成する。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑪ 連番を設定します。

桁	説明
1	A~Z の 1 文字を設定する。
2~4	連番を設定する。

1 つの IGES に対して 1 つの連番を設定します。(4 桁固定)  
複数 IGES を変換する場合は、各 IGES 毎の番号を設定してください。

⑫ OS ファイルの出力先をホスト、絶対パス、OS ファイル名で設定します。

桁	説明
5～	ホスト : 15 文字以内で設定する。(半角文字のみ)
	絶対パス : (251-ホストの文字数-OS ファイル名の文字数)の文字数以内で設定する。
	OS ファイル名 : 20 文字以内で設定する。(ピリオド(. )と拡張子を除く)

注) ⑤(MC 図面名)、⑥(IGES 名)、⑫(OS ファイル名)は、必ず設定してください。

その他の項目は、省略可能です。省略時は、システムファイルを参照します。

①～④と⑦～⑪は、必ず英数半角文字で入力してください。  
また、⑤は必ず半角文字で入力してください。

- ・ 図面指示ファイルの設定例を以下に示します。

システムファイルの設定を使用する例 1)

- ・ MC 図面名形式を有効にする場合

```
0001C  CAD TRAIN TEST  IGES
0001C:¥MCADAM¥ASA¥test.igs
0001000099-1
```

上記の設定では、寸法タイプの扱いは、システムファイルの設定を使用して変換します。

- ・ OS ファイル名形式を有効にする場合

```
A001MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD¥TEST.MCD
A001C:¥MCADAM¥ASA¥test.igs
A001000099-1
```

上記の設定では、寸法タイプの扱いは、システムファイルの設定を使用して変換します。



## システムファイルの設定を使用する例 2)

- ・ MC 図面名形式を有効にする場合

0001	TEST1	IGES
0001C:¥MCADAM¥ASA¥test1.igs		
0001000000-1		

上記の設定では、区画、グループ、ユーザーは、システムファイルの設定を使用して変換します。

- ・ OS ファイル名形式を有効にする場合

A001TEST1.MCD		
A001C:¥MCADAM¥ASA¥test1.igs		
A001000000-1		

上記の設定では、OS ファイルの出力先ホスト、絶対パスは、システムファイルの設定を使用して変換します。

## 一括変換する例)

0001C	CAD TRAIN TEST1	IGES
0001C:¥MCADAM¥ASA¥test1.igs		
0001000000-1		
0002	TEST2	IGES
0002C:¥MCADAM¥ASA¥test2.igs		
000212000000		
A003MCLOCAL:C:	¥MCADAM¥CAD¥TEST3.MCD	
A003C:¥MCADAM¥ASA¥test3.igs		
A00300000000		
A004	TEST4.MCD	
A004C:¥MCADAM¥ASA¥test4.igs		
A00415020000		

上記のように設定すると、一括変換します。

## 2) 実行手順

実行するには、次の方法があります。

**IGESGT** [/s システムファイル名]  
 { [/d 図面指示ファイル名] } { [/v 区画名] [/g グループ名]  
 [/u ユーザー名] [/p OS ファイルのパス] [/n 図面名] [/f IGES 名] }

## (1) パラメータ説明

## a) MC 図面名形式を有効する場合

/s	システムファイル名	システムファイル名とそれへの絶対パスを設定
/d	図面指示ファイル名	図面指示ファイル名とそれへの絶対パスを設定
/v	区画名	MC 図面区画を設定
/g	グループ名	MC 図面グループを設定
/u	ユーザー名	MC 図面ユーザーを設定
/n	図面名	MC 図面名(20 桁区切り文字なし)を設定
/f	IGES 名	IGES 名とそれへの絶対パスを設定

注) パラメータ /d を設定した場合は、同時にパラメータ /v、/g、/u、/n、/f は設定できません。

## b) OS ファイル名形式を有効する場合

/s	システムファイル名	システムファイル名とそれへの絶対パスを設定
/d	図面指示ファイル名	図面指示ファイル名とそれへの絶対パスを設定
/p	OS ファイルのパス	OS ファイルへの絶対パスを設定
/n	図面名	OS ファイル名を 20 桁以内(ピリオド(.)、拡張子を除く)で設定
/f	IGES 名	IGES 名とそれへの絶対パスを設定

注) パラメータ /d を設定した場合は、同時にパラメータ /p、/n、/f は設定できません。また、パラメータ /v、/g、/u と /p、/n は、同時に設定できません。

## (2) 実行方法

パラメータを組み合わせることで様々な実行方法があります。  
ここでは、以下の環境で実行するものとします。

・ 図面区画	C:
・ グループ	CAD
・ ユーザー	TRAIN
・ OS ファイルのパス	MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD
・ 図面名	"SAMPLE_DRAWING"(MC 図面名形式の場合) "SAMPLE.MCD"(OS ファイル名形式の場合)
・ IGES 名	C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
・ MC の導入先ドライブ	D:
・ システムファイル	C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.sys D:¥MCADAM¥ASA¥igesgt.sys(デフォルトの場合)
・ 図面指示ファイル	C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.dwg D:¥MCADAM¥ASA¥igesgt.dwg(デフォルトの場合)

実行方法は、次のいずれかを使用します。

## a) ダイレクトに図面名等を設定する方法

## (a) 区画、グループ、ユーザー、図面名、IGES 名をパラメータ設定する場合

```
IGESGT /v C /g CAD /u TRAIN /n "SAMPLE_DRAWING"
        /f C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
```

変換条件
デフォルトの <i>igesgt.sys</i> を参照。 (D:¥MCADAM¥ASA¥igesgt.sys)

## (b) 区画、グループ、ユーザー、図面名、IGES 名、システムファイルをパラメータ設定する場合

```
IGESGT /v C /g CAD /u TRAIN /n "SAMPLE_DRAWING"
        /f C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
        /s C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.sys
```

変換条件
<i>gt001.sys</i> を参照。

## (c) OS ファイルのパス、図面名、IGES 名をパラメータ設定する場合

```
IGESGT /p MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD /n "SAMPLE.MCD"
        /f C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
```

変換条件
デフォルトの <i>igesgt.sys</i> を参照。 (D:¥MCADAM¥ASA¥igesgt.sys)

## (d) OS ファイルのパス、図面名、IGES 名、システムファイルをパラメータ設定する場合

```
IGESGT /p MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD /n "SAMPLE.MCD"
        /f C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
        /s C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.sys
```

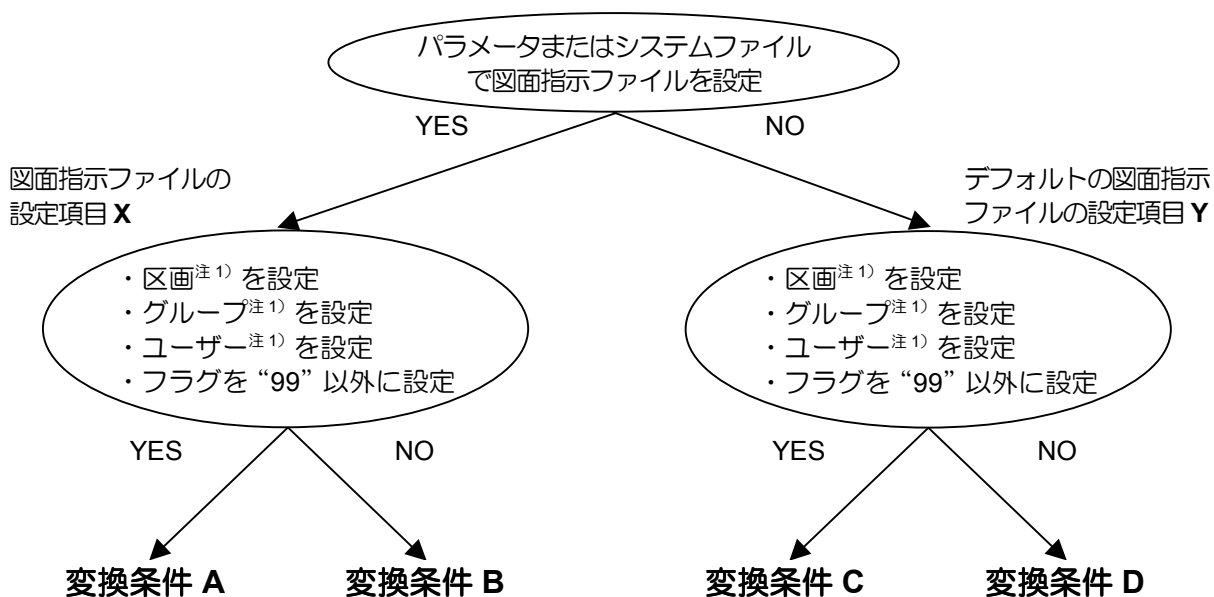
変換条件
<i>gt001.sys</i> を参照。

## b) 図面指示ファイルに図面名等を設定する方法

この方法で実行する場合、図面指示ファイルとシステムファイルの設定により、変換条件が変わります。実行する前に下図を参考にして、2つのファイルの設定項目を確認してください。

注) 下図のシステムファイルは、パラメータで設定する場合と、デフォルト(D:\%MCADAM%\ASA\igesgt.sys)の場合がありますが、図面指示ファイルとの関係は変わりません。

注) 図面指示ファイルは、パラメータで設定する場合、システムファイルで設定する場合、デフォルト設定の場合があります。図面指示ファイルをパラメータで設定していない場合は、システムファイルの設定を使用します。さらに、システムファイルでも設定していない場合は、デフォルト(D:\%MCADAM%\ASA\igesgt.dwg)になります。



値	変換条件
<b>A</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図面指示ファイルをパラメータで設定している場合 パラメータで設定している図面指示ファイルを参照する。</li> <li>・ 図面指示ファイルをパラメータで設定していない場合 システムファイルで設定している図面指示ファイルを参照する。</li> </ul>
<b>B</b>	設定項目 X は、システムファイルを参照。それ以外は、図面指示ファイルを参照。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図面指示ファイルをパラメータで設定している場合 パラメータで設定している図面指示ファイルを参照する。</li> <li>・ 図面指示ファイルをパラメータで設定していない場合 システムファイルで設定している図面指示ファイルを参照する。</li> </ul>
<b>C</b>	デフォルトの図面指示ファイルを参照。(D:\%MCADAM%\ASA\igesgt.dwg)
<b>D</b>	設定項目 Y は、デフォルトのシステムファイルを参照。(D:\%MCADAM%\ASA\igesgt.sys) それ以外は、デフォルトの図面指示ファイルを参照。(D:\%MCADAM%\ASA\igesgt.dwg)

注) A~Dの変換条件は、79ページから説明している実行方法全てに関係してきます。

注1) OSファイル名形式の場合は、“区画 グループ ユーザー”が“OSファイルのパス”になります。

- (a) パラメータ設定しない場合

```
IGESGT
```

- (b) 区画、グループ、ユーザーをパラメータ設定する場合

```
IGESGT /v C /g CAD /u TRAIN
```

- (c) システムファイルをパラメータ設定する場合

```
IGESGT /s C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.sys
```

- (d) システムファイル、区画、グループ、ユーザーをパラメータ設定する場合

```
IGESGT /s C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.sys  
/v C /g CAD /u TRAIN
```

- (e) 図面指示ファイルをパラメータ設定する場合

```
IGESGT /d C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.dwg
```

- (f) システムファイル、図面指示ファイルをパラメータ設定する場合

```
IGESGT /s C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.sys  
/d C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.dwg
```

- (g) OS ファイルのパスをパラメータ設定する場合

```
IGESGT /p MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD
```

- (h) システムファイル、OS ファイルのパスをパラメータ設定する場合

```
IGESGT /s C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.sys  
/p MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD
```

注) 変換条件は、6. 2) (2) b) 図面指示ファイルに図面名等を設定する方法を参照してください。

(i) 次の例は、変換できません。

```
IGESGT /d C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.dwg  
/v C /g CAD /u TRAIN
```

```
IGESGT /d C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.dwg  
/v C /g CAD /u TRAIN /n "SAMPLE_DRAWING"
```

注) 図面指示ファイルと区画、グループ、ユーザー、図面名を一緒にパラメータ設定することはできません。

```
IGESGT /d C:¥MCADAM¥ASA¥gt001.dwg  
/f C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
```

注) 図面指示ファイルと IGES 名を一緒にパラメータ設定することはできません。

```
IGESGT /p MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD  
/v C /g CAD /u TRAIN /n "SAMPLE.MCD"
```

注) OS ファイルのパスと区画、グループ、ユーザーを一緒にパラメータ設定することはできません。

## 3) 結果確認手順

IGES ➡ 図面変換後、変換処理が正常に終了したことを確認するために、ログファイルを出力します。

なお、ログファイルのファイル名および、出力先ディレクトリーは、次のように設定してください。

- ・システムファイル

**LOGFL=** 絶対パスでログファイル名を設定

## (1) ログファイルの内容

ログファイルの1例を以下に示します。

test.igs	-->	TEST	IGES	RC00	変換正常終了
①		②		③	④

- ① 変換元の IGES 名。
- ② 変換後の図面名。
- ③ エラーコード。
- ④ エラーメッセージ。

注) ログファイルの内容は、前に変換を行った内容の後ろに追加しますので、注意してください。

エラーメッセージの内容については、8. エラーメッセージ説明を参照してください。



## 7. 図面 ⇒ IGES 変換手順

### 1) 実行前の準備

図面 ➡ IGES 変換は、次の項目をファイルおよびパラメータで設定します。

- ・ 区画
- ・ グループ
- ・ ユーザー
- ・ OS ファイルのパス
- ・ 図面名
- ・ その他の設定項目

変換に必要なファイルを以下に示します。これらのサンプルファイルは、IGES-C 導入先(MC 導入ドライブ¥MCADAM¥asa)に格納されています。

- ・ *igesmk.sys* (システムファイル)
- ・ *igesmk.dwg* (図面指示ファイル)

注) 各ファイルの名称はデフォルトです。*igesmk.sys* *igesmk.dwg* は、実行方法により任意のファイル名に変更できます。

## (1) システムファイルの設定

## a) ファイル概要

このファイルは、図面 ⇒ IGES 変換時に使用します。変換状況に合わせて各項目の設定を決めてファイルを作成してください。

また、①～④、⑥～⑭は、図面指示ファイルの設定を優先します。

詳細は、7. 1) (2) システムファイルの設定を使用する例を参照してください。

## b) ファイル設定内容

システムファイルの 1 例を以下に示します。

KUKAKU=C	-----	①
GROUP=CAD	-----	②
USER=TRAIN	-----	③
DIR=C:¥MCADAM¥ASA	-----	④
XXX=IGS	-----	⑤
CAD_SYSTEM=0	-----	⑥
LIMIT=0	-----	⑦
VIEW=0	-----	⑧
DITTO=0	-----	⑨
SYMBOL=0	-----	⑩
PARTS=0	-----	⑪
DIM=0	-----	⑫
KANA1=0	-----	⑬
KANA2=0	-----	⑭
NUMBER=-1	-----	⑮
WIDTH=-1	-----	⑯
FNTWD=-1	-----	⑰
HIGHT=-1	-----	⑱
FNTHI=-1	-----	⑲
XPTS=-1	-----	⑳
FNTXP=-1	-----	㉑
YPTS=-1	-----	㉒
FNTYP=-1	-----	㉓
OSDIR=MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD	-----	㉔
DWGFL=C:¥MCADAM¥ASA¥igesmk.dwg	-----	㉕
LOGFL=C:¥MCADAM¥ASA¥igesmk.log	-----	㉖

(a) 設定内容(①～③と⑤～⑩)は英数半角文字で設定します)

① KUKAKU=【区画】

MC 図面の入力先区画を設定します。

V3.18～V4R3 の場合は、1 文字以内で区画を設定してください。

V5R1, V5R2 の場合は、4 文字以内で区画を設定してください。

② GROUP=【グループ】

MC 図面の入力先グループを設定します。

4 文字以内でグループを設定してください。

③ USER=【ユーザー】

MC 図面の入力先ユーザーを設定します。

6 文字以内でユーザーを設定してください。

④ DIR=【ディレクトリー】

IGES の出力先ディレクトリーを設定します。

---

ディレクトリー (251-IGES 名の文字数)の文字数以内で設定

---

⑤ XXX=【拡張子】

IGES の拡張子を設定します。

拡張子を 3 文字以内で設定してください。

- ⑥ CAD\_SYSTEM=【ファイルタイプ】  
IGES の形式を設定します。

値	説明
0	デフォルト設定。
1	AutoCAD 形式で作成する。
2	HICAD 形式で作成する。
3	ANVIL 4000 形式で作成する。
4	ED_Draw 形式で作成する。
5	CADDS V4 形式で作成する。
6	InterGraph 形式で作成する。
7	Caelum 形式で作成する。
8	NADAMS 形式で作成する。
9	AdvanceCAD 形式で作成する。
10	ME10 形式で作成する。
11	CAE-2DR4.1 形式で作成する。
12	CAE-2DR4.3 形式で作成する。
13	UNICAD 形式で作成する。
14	CADDS V5 形式で作成する。
15	I-deas 形式で作成する。
16	ANVIL 5000 形式で作成する。
17	CAE-MINI 形式で作成する。
18	CATIA V4 形式で作成する。

- ⑦ LIMIT=【精度】  
出力精度を設定します。

値	説明
0	作成する IGES の精度を 16 ビットにする。
1	作成する IGES の精度を 32 ビットにする。

## ⑧ VIEW=【ビュー】

ビューの扱いを設定します。

値	説明
0	ビューをビューとして作成する。
1	ビューを要素展開して作成する。
2	ビューを子図として作成する。

## ⑨ DITTO=【子図】

子図の扱いを設定します。

値	説明
0	子図を子図として作成する。
1	子図を要素展開して作成する。

## ⑩ SYMBOL=【シンボル】

シンボルの扱いを設定します。

値	説明
0	シンボルを子図として作成する。
1	シンボルを要素展開して作成する。

## ⑪ PARTS=【パーツ】

パーツの扱いを設定します。

値	説明
0	パーツを子図として作成する。
1	パーツを要素展開して作成する。

## ⑫ DIM=【寸法】

寸法の扱いを設定します。

値	説明
0	寸法を寸法として作成する。
1	寸法を要素展開して作成する。
2	寸法を子図として作成する。

## ⑬ KANA1=【1バイトカナ】

1バイトカナの扱いを設定します。

値	説明
0	元のデータのまま1バイト文字で作成する。
1	1バイト文字を、2バイト文字で作成する。
2	1バイトカナを削除して作成する。

## ⑭ KANA2=【2バイトカナ】

2バイトカナの扱いを設定します。

値	説明
0	元のデータのまま2バイト文字で作成する。
1	2バイト文字の英数文字を1バイト文字にし、その他の文字を“*”に置き換えて作成する。
2	2バイトカナを削除して作成する。

## ⑮ NUMBER=【文字数】

文字数の扱いを設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。
0	文字バイト数として作成する。
1	文字数として作成する。

## ⑩ WIDTH=【計算式と係数】

文字幅補正の計算式と係数を設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。
16	特殊補正を行って作成する。
33	(文字幅の数値×0.85)の補正を行って作成する。
34	(文字幅の数値÷0.85)の補正を行って作成する。
36	(文字幅の数値+0.85)の補正を行って作成する。
40	(文字幅の数値-0.85)の補正を行って作成する。
65	(文字幅の数値×1.40)の補正を行って作成する。
66	(文字幅の数値÷1.40)の補正を行って作成する。
68	(文字幅の数値+1.40)の補正を行って作成する。
72	(文字幅の数値-1.40)の補正を行って作成する。
129	(文字幅の数値×4.00)の補正を行って作成する。
130	(文字幅の数値÷4.00)の補正を行って作成する。
132	(文字幅の数値+4.00)の補正を行って作成する。
136	(文字幅の数値-4.00)の補正を行って作成する。
257	(文字幅の数値×FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
258	(文字幅の数値÷FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
260	(文字幅の数値+FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
264	(文字幅の数値-FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
513	(文字幅の数値×FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
514	(文字幅の数値÷FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
516	(文字幅の数値+FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
520	(文字幅の数値-FNTHI の数値)の補正を行って作成する。

## ⑪ FNTWD=【係数】

任意の係数(数値×100)を設定します。

例) 2 という係数を設定する場合は、200 と設定してください。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。

## ⑱ HIGHT=【計算式と係数】

文字高補正の計算式と係数を設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。
16	特殊補正を行って作成する。
33	(文字高の数値×0.85)の補正を行って作成する。
34	(文字高の数値÷0.85)の補正を行って作成する。
36	(文字高の数値+0.85)の補正を行って作成する。
40	(文字高の数値-0.85)の補正を行って作成する。
65	(文字高の数値×1.40)の補正を行って作成する。
66	(文字高の数値÷1.40)の補正を行って作成する。
68	(文字高の数値+1.40)の補正を行って作成する。
72	(文字高の数値-1.40)の補正を行って作成する。
129	(文字高の数値×4.00)の補正を行って作成する。
130	(文字高の数値÷4.00)の補正を行って作成する。
132	(文字高の数値+4.00)の補正を行って作成する。
136	(文字高の数値-4.00)の補正を行って作成する。
257	(文字高の数値×FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
258	(文字高の数値÷FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
260	(文字高の数値+FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
264	(文字高の数値-FNTWD の数値)の補正を行って作成する。
513	(文字高の数値×FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
514	(文字高の数値÷FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
516	(文字高の数値+FNTHI の数値)の補正を行って作成する。
520	(文字高の数値-FNTHI の数値)の補正を行って作成する。

## ⑲ FNTHI=【係数】

任意の係数(数値×100)を設定します。

例) 2 という係数を設定する場合は、200 と設定してください。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。



## ⑳ XPTS=【計算式と係数】

文字基準点補正(X座標値)の計算式と係数を設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。
17	(X座標値×7.0)の補正を行って作成する。
18	(X座標値÷7.0)の補正を行って作成する。
20	(X座標値+7.0)の補正を行って作成する。
24	(X座標値-7.0)の補正を行って作成する。
33	(X座標値×0.05)の補正を行って作成する。
34	(X座標値÷0.05)の補正を行って作成する。
36	(X座標値+0.05)の補正を行って作成する。
40	(X座標値-0.05)の補正を行って作成する。
65	(X座標値×FNTXPの数値)の補正を行って作成する。
66	(X座標値÷FNTXPの数値)の補正を行って作成する。
68	(X座標値+FNTXPの数値)の補正を行って作成する。
72	(X座標値-FNTXPの数値)の補正を行って作成する。

## ㉑ FNTXP=【係数】

任意の係数(数値×100)を設定します。

例) 2という係数を設定する場合は、200と設定してください。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。

## ②② YPTS=【計算式と係数】

文字基準点補正(Y座標値)の計算式と係数を設定します。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。
17	(Y座標値×7.0)の補正を行って作成する。
18	(Y座標値÷7.0)の補正を行って作成する。
20	(Y座標値+7.0)の補正を行って作成する。
24	(Y座標値-7.0)の補正を行って作成する。
33	(Y座標値×0.05)の補正を行って作成する。
34	(Y座標値÷0.05)の補正を行って作成する。
36	(Y座標値+0.05)の補正を行って作成する。
40	(Y座標値-0.05)の補正を行って作成する。
65	(Y座標値×FNTYPの数値)の補正を行って作成する。
66	(Y座標値÷FNTYPの数値)の補正を行って作成する。
68	(Y座標値+FNTYPの数値)の補正を行って作成する。
72	(Y座標値-FNTYPの数値)の補正を行って作成する。

## ②③ FNTYP=【係数】

任意の係数(数値×100)を設定します。

例) 2という係数を設定する場合は、200と設定してください。

値	説明
-1	CAD_SYSTEM で設定した IGES 形式別デフォルト設定で作成する。

## ②④ OSDIR=【OS ファイルのパス】

OS ファイルの入力先を設定します。

OS ファイルの入力先をホスト、絶対パスで設定してください。

ホスト	15文字以内で設定(半角文字のみ)
ディレクトリー	(249-ホストの文字数-OSファイル名の文字数)の文字数以内で設定

## ②⑤ DWGFL=【図面指示ファイル】

使用する図面指示ファイルを設定します。

図面指示ファイルを絶対パスとファイル名で設定してください。

絶対パスとファイル名	249文字以内で設定
------------	------------

## ②⑥ LOGFL=【ログファイル】

ログファイルを設定します。

ログファイルを絶対パスとファイル名で設定してください。

---

**絶対パスとファイル名** 249文字以内で設定

---

注) 必ずファイルは左詰めで入力し、途中にスペースは入力しないでください。

1行に1項目のみ入力できます。

## (2) 図面指示ファイルの設定

## a) ファイル概要

このファイルは、図面 ➡ IGES 変換時に使用します。変換状況に合わせて各項目の設定を決めてファイルを作成してください。

ここの設定は、一時的に設定を変更して変換する場合、もしくは、一括変換する場合に使用してください。

ここで、以下の場合はシステムファイルの設定を使用します。

・区画	設定を省略
・グループ	設定を省略
・ユーザー	設定を省略
・OS ファイルのパス	設定を省略
・IGES のパス	設定を省略
・⑦~⑮の値	99 を設定

## b) ファイル設定内容

図面指示ファイルの 1 例を以下に示します。

- ・ MC 図面名形式を有効にする場合

0001C	CAD	TRAIN	TEST	IGES					
①	②	③	④	⑤					
0001C:¥MCADAM¥ASA¥test.igs									
①	⑥								
000100000000000000000000									
①	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮

- ・ OS ファイル名形式を有効にする場合

A001MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD¥TEST.MCD															
⑬				⑭											
A001C:¥MCADAM¥ASA¥test.igs															
⑬				⑮											
A0010000000000000000															
⑬		⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚

(a) 設定内容

- ① 連番を設定します。

桁	説明
1~4	連番を設定する。

1つの図面に対して1つの連番を設定します。(4桁固定)  
複数図面を変換する場合は、各図面毎の番号を設定してください。

- ② MC 図面の入力先区画を設定します。

V3.18~V4R3 の場合は、次のように設定してください。

桁	説明
5	区画を設定する。
6~8	ブランクを入力する。

V5R1, V5R2 の場合は、次のように設定してください。

桁	説明
5~8	区画を設定する。

4文字に満たない場合は、ブランクを入力してください。

- ③ MC 図面の入力先グループを設定します。

桁	説明
9~12	グループを設定する。

4文字に満たない場合は、ブランクを入力してください。

- ④ MC 図面の入力先ユーザーを設定します。

桁	説明
---	----

13~18	ユーザーを設定する。
-------	------------

6 文字に満たない場合は、ブランクを入力してください。

- ⑤ 変換元となる MC 図面名を設定します。

桁	説明
---	----

19~38	カンマ( , )なしの 20 文字で MC 図面名を設定する。
-------	---------------------------------

- ⑥ 作成する IGES 名を絶対パスとファイル名で設定します。

桁	説明
---	----

5~	251 文字以内で IGES 名を設定する。
----	------------------------

- ⑦ IGES の形式を設定します。

5, 6 桁目に、IGES タイプのフラグを設定してください。

値	説明
---	----

00	デフォルト設定。
----	----------

01	AutoCAD 形式で作成する。
----	------------------

02	HICAD 形式で作成する。
----	----------------

03	ANVIL 4000 形式で作成する。
----	---------------------

04	ED_Draw 形式で作成する。
----	------------------

05	CADDS V4 形式で作成する。
----	-------------------

06	InterGraph 形式で作成する。
----	---------------------

07	Caelum 形式で作成する。
----	-----------------

08	NADAMS 形式で作成する。
----	-----------------

09	AdvanceCAD 形式で作成する。
----	---------------------

10	ME10 形式で作成する。
----	---------------

11	CAE-2DR4.1 形式で作成する。
----	---------------------

12	CAE-2DR4.3 形式で作成する。
----	---------------------

13	UNICAD 形式で作成する。
----	-----------------

14	CADDS V5 形式で作成する。
----	-------------------

15	I-deas 形式で作成する。
----	-----------------

16	ANVIL 5000 形式で作成する。
----	---------------------

17	CAE-MINI 形式で作成する。
----	-------------------

18	CATIA V4 形式で作成する。
----	-------------------

99	システムファイルの設定で作成する。
----	-------------------

- ⑧ 出力精度を設定します。  
7, 8 桁目に、出力精度のフラグを設定してください。

値	説明
00	作成する IGES の精度を 16 ビットにする。
01	作成する IGES の精度を 32 ビットにする。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑨ ビューの扱いを設定します。  
9, 10 桁目に、ビューの扱いのフラグを設定してください。

値	説明
00	ビューをビューとして作成する。
01	ビューを要素展開して作成する。
02	ビューを子図として作成する。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑩ 子図の扱いを設定します。  
11, 12 桁目に、子図の扱いのフラグを設定してください。

値	説明
00	子図を子図として作成する。
01	子図を要素展開して作成する。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑪ シンボルの扱いを設定します。  
13, 14 桁目に、シンボルの扱いのフラグを設定してください。

値	説明
00	シンボルを子図として作成する。
01	シンボルを要素展開して作成する。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑫ パーツの扱いを設定します。  
15, 16 桁目に、パーツの扱いのフラグを設定してください。

値	説明
00	パーツを子図として作成する。
01	パーツを要素展開して作成する。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑬ 寸法の扱いを設定します。  
17, 18 桁目に、寸法の扱いのフラグを設定してください。

値	説明
00	寸法を寸法として作成する。
01	寸法を要素展開して作成する。
02	寸法を子図として作成する。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑭ 1 バイトカナの扱いを設定します。  
19, 20 桁目に、1 バイトカナの扱いのフラグを設定してください。

値	説明
00	元のデータのまま 1 バイト文字で作成する。
01	1 バイト文字を、2 バイト文字で作成する。
02	1 バイトカナを削除して作成する。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑮ 2 バイトカナの扱いを設定します。  
21, 22 桁目に、2 バイトカナの扱いのフラグを設定してください。

値	説明
00	元のデータのまま 2 バイト文字で作成する。
01	2 バイト文字の英数文字を 1 バイト文字にし、その他の文字を“*”に置き換えて作成する。
02	2 バイトカナを削除して作成する。
99	システムファイルの設定で作成する。

- ⑯ 連番を設定します。

桁	説明
1	A~Z の 1 文字を設定する。
2~4	連番を設定する。

1 つの図面に対して 1 つの連番を設定します。(4 桁固定)  
複数図面を変換する場合は、各図面毎の番号を設定してください。



⑰ OS ファイルの入力先をホスト、絶対パス、OS ファイル名で設定します。

桁	説明
5～	ホスト : 15 文字以内で設定する。(半角文字のみ)
	絶対パス : (251-ホストの文字数-OS ファイル名の文字数)の文字数以内で設定する。
	OS ファイル名 : 20 文字以内で設定する。(ピリオド(. )と拡張子を除く)

注) ⑤(MC 図面名)、⑥(IGES 名)、⑰(OS ファイル名)は、必ず設定してください。

その他の項目は、省略可能です。省略時は、システムファイルを参照します。

①～④と⑦～⑱は、必ず英数半角文字で入力してください。  
また、⑤は必ず半角文字で入力してください。

- ・ 図面指示ファイルの設定例を以下に示します。

システムファイルの設定を使用する例 1)

- ・ MC 図面名形式を有効にする場合

```
0001C  CAD TRAIN TEST  IGES
0001C:¥MCADAM¥ASA¥test.igs
0001000099000000000000
```

上記の設定では、ビューの扱いは、システムファイルの設定を使用して変換します。

- ・ OS ファイル名形式を有効にする場合

```
A001MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD¥TEST.MCD
A001C:¥MCADAM¥ASA¥test.igs
A001000099000000000000
```

上記の設定では、ビューの扱いは、システムファイルの設定を使用して変換します。

## システムファイルの設定を使用する例 2)

- ・ MC 図面名形式を有効にする場合

0001	TEST1	IGES
0001C:¥MCADAM¥ASA¥test1.igs		
0001000000000000000000		

上記の設定では、区画、グループ、ユーザーは、システムファイルの設定を使用して変換します。

- ・ OS ファイル名形式を有効にする場合

A001TEST1.MCD		
A001C:¥MCADAM¥ASA¥test1.igs		
A001000000000000000000		

上記の設定では、OS ファイルの出力先ホスト、絶対パスは、システムファイルの設定を使用して変換します。

## 一括変換する例)

0001C	CAD TRAIN TEST1	IGES
0001C:¥MCADAM¥ASA¥test1.igs		
0001000000000000000000		
0002	TEST2	IGES
0002C:¥MCADAM¥ASA¥test2.igs		
0002010000000001000000		
A003MCLOCAL:C:	¥MCADAM¥CAD¥TEST3.MCD	
A003C:¥MCADAM¥ASA¥test3.igs		
A003020000000000000000		
A004	TEST4.MCD	
A004C:¥MCADAM¥ASA¥test4.igs		
A004020000000000000000		

上記のように設定すると、一括変換します。

## 2) 実行手順

実行するには、次の方法があります。

**IGESMK** [/s システムファイル名]  
 { [/d 図面指示ファイル名] } { [/v 区画名] [/g グループ名]  
 [/u ユーザー名] [/p OS ファイルのパス] [/n 図面名] [/f IGES 名] }

## (1) パラメータ説明

## a) MC 図面名形式を有効する場合

/s	システムファイル名	システムファイル名とそれへの絶対パスを設定
/d	図面指示ファイル名	図面指示ファイル名とそれへの絶対パスを設定
/v	区画名	MC 図面区画を設定
/g	グループ名	MC 図面グループを設定
/u	ユーザー名	MC 図面ユーザーを設定
/n	図面名	MC 図面名(20 桁区切り文字なし)を設定
/f	IGES 名	IGES 名とそれへの絶対パスを設定

注) パラメータ /d を設定した場合は、同時にパラメータ /v、/g、/u、/n、/f は設定できません。

## b) OS ファイル名形式を有効する場合

/s	システムファイル名	システムファイル名とそれへの絶対パスを設定
/d	図面指示ファイル名	図面指示ファイル名とそれへの絶対パスを設定
/p	OS ファイルのパス	OS ファイルへの絶対パスを設定
/n	図面名	OS ファイル名を 20 桁以内(ピリオド(.)、拡張子を除く)で設定
/f	IGES 名	IGES 名とそれへの絶対パスを設定

注) パラメータ /d を設定した場合は、同時にパラメータ /p、/n、/f は設定できません。また、パラメータ /v、/g、/u と /p、/n は、同時に設定できません。

## (2) 実行方法

パラメータを組み合わせることで様々な実行方法があります。  
ここでは、以下の環境で実行するものとします。

・ 図面区画	C:
・ グループ	CAD
・ ユーザー	TRAIN
・ OS ファイルのパス	MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD
・ 図面名	"SAMPLE_DRAWING"(MC 図面名形式の場合) "SAMPLE.MCD"(OS ファイル名形式の場合)
・ IGES 名	C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
・ MC の導入先ドライブ	D:
・ システムファイル	C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.sys D:¥MCADAM¥ASA¥igesmk.sys(デフォルトの場合)
・ 図面指示ファイル	C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.dwg D:¥MCADAM¥ASA¥igesmk.dwg(デフォルトの場合)

実行方法は、次のいずれかを使用します。

## a) ダイレクトに図面名等を設定する方法

## (a) 区画、グループ、ユーザー、図面名、IGES 名をパラメータ設定する場合

```
IGESMK /v C /g CAD /u TRAIN /n "SAMPLE_DRAWING"
        /f C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
```

変換条件
デフォルトの <i>igesmk.sys</i> を参照。 (D:¥MCADAM¥ASA¥igesmk.sys)

## (b) 区画、グループ、ユーザー、図面名、IGES 名、システムファイルをパラメータ設定する場合

```
IGESMK /v C /g CAD /u TRAIN /n "SAMPLE_DRAWING"
        /f C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
        /s C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.sys
```

変換条件
<i>mk001.sys</i> を参照。

## (c) OS ファイルのパス、図面名、IGES 名をパラメータ設定する場合

```
IGESMK /p MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD /n "SAMPLE.MCD"
        /f C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
```

変換条件
デフォルトの <i>igesmk.sys</i> を参照。 (D:¥MCADAM¥ASA¥igesmk.sys)

## (d) OS ファイルのパス、図面名、IGES 名、システムファイルをパラメータ設定する場合

```
IGESMK /p MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD /n "SAMPLE.MCD"
        /f C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
        /s C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.sys
```

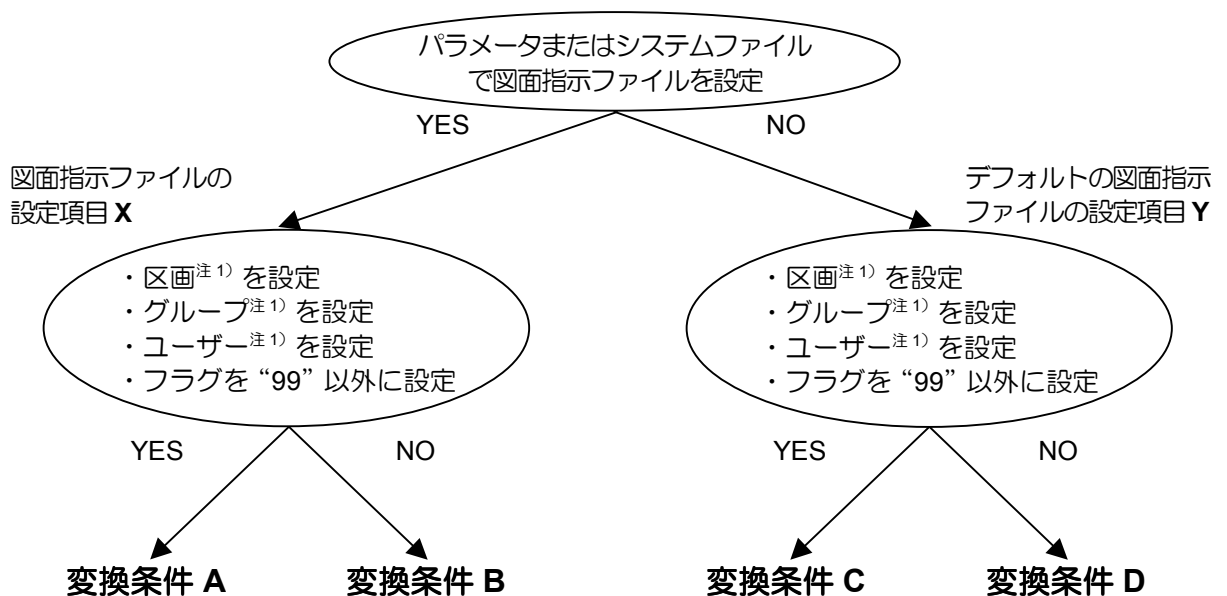
変換条件
<i>mk001.sys</i> を参照。

## b) 図面指示ファイルに図面名等を設定する方法

この方法で実行する場合、図面指示ファイルとシステムファイルの設定により、変換条件が変わります。実行する前に下図を参考にして、2つのファイルの設定項目を確認してください。

注) 下図のシステムファイルは、パラメータで設定する場合と、デフォルト(D:\MCADAM\ASA\igesmk.sys)の場合がありますが、図面指示ファイルとの関係は変わりません。

注) 図面指示ファイルは、パラメータで設定する場合、システムファイルで設定する場合、デフォルト設定の場合があります。図面指示ファイルをパラメータで設定していない場合は、システムファイルの設定を使用します。さらに、システムファイルでも設定していない場合は、デフォルト(D:\MCADAM\ASA\igesmk.dwg)になります。



値	変換条件
<b>A</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図面指示ファイルをパラメータで設定している場合 パラメータで設定している図面指示ファイルを参照する。</li> <li>・ 図面指示ファイルをパラメータで設定していない場合 システムファイルで設定している図面指示ファイルを参照する。</li> </ul>
<b>B</b>	設定項目 X は、システムファイルを参照。それ以外は、図面指示ファイルを参照。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図面指示ファイルをパラメータで設定している場合 パラメータで設定している図面指示ファイルを参照する。</li> <li>・ 図面指示ファイルをパラメータで設定していない場合 システムファイルで設定している図面指示ファイルを参照する。</li> </ul>
<b>C</b>	デフォルトの図面指示ファイルを参照。(D:\MCADAM\ASA\igesmk.dwg)
<b>D</b>	設定項目 Y は、デフォルトのシステムファイルを参照。(D:\MCADAM\ASA\igesmk.sys) それ以外は、デフォルトの図面指示ファイルを参照。(D:\MCADAM\ASA\igesmk.dwg)

注) A~Dの変換条件は、105ページから説明している実行方法全てに関係してきます。

注1) OSファイル名形式の場合は、“区画 グループ ユーザー”が“OSファイルのパス”になります。

- (a) パラメータ設定しない場合

```
IGESMK
```

- (b) 区画、グループ、ユーザーをパラメータ設定する場合

```
IGESMK /v C /g CAD /u TRAIN
```

- (c) システムファイルをパラメータ設定する場合

```
IGESMK /s C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.sys
```

- (d) システムファイル、区画、グループ、ユーザーをパラメータ設定する場合

```
IGESMK /s C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.sys  
/v C /g CAD /u TRAIN
```

- (e) 図面指示ファイルをパラメータ設定する場合

```
IGESMK /d C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.dwg
```

- (f) システムファイル、図面指示ファイルをパラメータ設定する場合

```
IGESMK /s C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.sys  
/d C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.dwg
```

- (g) OS ファイルのパスをパラメータ設定する場合

```
IGESMK /p MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD
```

- (h) システムファイル、OS ファイルのパスをパラメータ設定する場合

```
IGESMK /s C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.sys  
/p MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD
```

注) 変換条件は、7. 2) (2) b) 図面指示ファイルに図面名等を設定する方法を参照してください。



(i) 次の例は、変換できません。

```
IGESMK /d C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.dwg  
/v C /g CAD /u TRAIN
```

```
IGESMK /d C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.dwg  
/v C /g CAD /u TRAIN /n "SAMPLE_DRAWING"
```

注) 図面指示ファイルと区画、グループ、ユーザー、図面名を一緒にパラメータ設定することはできません。

```
IGESMK /d C:¥MCADAM¥ASA¥mk001.dwg  
/f C:¥MCADAM¥ASA¥sample.igs
```

注) 図面指示ファイルと IGES 名を一緒にパラメータ設定することはできません。

```
IGESMK /p MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD  
/v C /g CAD /u TRAIN /n "SAMPLE_DRAWING"
```

注) OS ファイルのパスと区画、グループ、ユーザーを一緒にパラメータ設定することはできません。

## 3) 結果確認手順

図面 ➡ IGES 変換後、変換処理が正常に終了したことを確認するために、ログファイルを出力します。

なお、ログファイルのファイル名および、出力先ディレクトリーは、次のように設定してください。

- ・システムファイル

**LOGFL=** 絶対パスでログファイル名を設定

## (1) ログファイルの内容

ログファイルの 1 例を以下に示します。

TEST	IGES --> test.igs	RC00	変換正常終了
①	②	③	④

- ① 変換元の図面名。
- ② 変換後の IGES 名。
- ③ エラーコード。
- ④ エラーメッセージ。

注) ログファイルの内容は、前に変換を行った内容の後ろに追加しますので、注意してください。

エラーメッセージの内容については、8. エラーメッセージ説明を参照してください。

# 第IV部 共通



## 8. エラーメッセージ説明

### 1) IGES ⇒ 図面変換

- ◆ **変換正常終了**  
解説 変換処理が、正常に終了しました。
- ◆ **IGES ファイルの読み込みに失敗**  
解説 その IGES にアクセス権がない場合が考えられます。  
対策 IGES のアクセス権に READ 権を付けてください。
- ◆ **メモリー不足**  
解説 メモリーが動的に確保できなかった場合が考えられます。  
対策 再起動して、変換実行してください。再度、このエラーメッセージが表示された場合は、弊社に問い合わせてください。
- ◆ **変換内部エラーX (Xは任意)**  
解説 変換途中で、エラーが発生した場合が考えられます。  
対策 弊社に問い合わせてください。
- ◆ **IGES ファイルが異常です**  
解説 IGES のデータフォーマットが正しくない場合が考えられます。  
対策 IGES の内容が正しいか確認してください。
- ◆ **IGES ファイルが大きすぎます**  
解説 変換中の図面のモデル・サイズが大きすぎます。  
対策 *Mcadam \*.sys* 中の図面のモデル・サイズの値を確認し、システム管理者と相談し、この値を変更してください。再度、このメッセージが表示された場合は、変換条件を次のようにしてください。
- ◆ **図面の書き込みに失敗**  
解説 書き込み先ディスクの空き不足が考えられます。  
対策 書き込み先ディスクを空けてください。  
解説 図面の権限がない場合が考えられます。  
対策 図面の権限を書き込み許可にしてください。

## ◆ MC 区画が存在しない

解説 設定した MC 区画が不適切です。

対策 存在する MC 区画を設定してください。

## ◆ MC グループが存在しない

解説 設定した MC グループが不適切です。

対策 存在する MC グループを設定してください。

## ◆ MC ユーザーが存在しない

解説 設定した MC ユーザーが不適切です。

対策 存在する MC ユーザーを設定してください。

## ◆ ビュー、子図が 64 個を超えます (V2 図面作成時のみ)

解説 ビュー+子図の数が 64 個をオーバーした場合があります。

対策 MC の図面互換モードを V3 図面にしてください。

## ◆ 図面名が異常

## 対話モード版の場合

解説 入力した図面名の文字が正しくない場合があります。

対策 再度、図面名を入力してください。

## バッチモード版の場合

解説 パラメータの設定が正しくない場合があります。

対策 パラメータの設定を確認してください。

解説 図面指示ファイルに図面名を設定していない場合があります。

対策 図面指示ファイルで設定している図面名を確認してください。

解説 パラメータ、図面指示ファイル両方の設定が正しくない場合があります。

対策 6. IGES ⇒ 図面変換手順を参照し、再度設定してください。

- ◆ **IGES ファイルが存在しない (バッチモード版のみ)**
- |    |  |
|----|--|
| 解説 | 図面指示ファイルに入っている IGES が存在しない場合が考えられます。         |
| 対策 | IGES が存在するか確認してください。                         |
| 解説 | 図面指示ファイルに設定しているパス、および IGES 名が正しくない場合が考えられます。 |
| 対策 | 図面指示ファイルで設定しているパス、および IGES 名を確認してください。       |
| 解説 | パラメータ、図面指示ファイル両方の設定が正しくない場合が考えられます。          |
| 対策 | 6. IGES ⇒ 図面変換手順を参照し、再度設定してください。             |
- ◆ **プロテクトが見つかりません (スタンドアロンタイプ)**
- |    |                          |
|----|--------------------------|
| 解説 | プロテクトをセットしていない場合が考えられます。 |
| 対策 | プロテクトをセットしてください。         |
- ◆ **ライセンス環境に異常があります (ネットワークライセンスタイプ)**
- |    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| 解説 | ネットワーク環境が正しくない場合が考えられます。            |
| 対策 | ネットワーク環境に異常がないか、ネットワーク管理者に相談してください。 |
- ◆ **ライセンスがありません (ネットワークライセンスタイプ)**
- |    |                             |
|----|-----------------------------|
| 解説 | プロテクトのライセンス数が 0 の場合が考えられます。 |
| 対策 | 弊社に問い合わせてください。              |
- ◆ **クライアント登録されていません (ネットワークライセンスタイプ)**
- |    |   |
|----|---|
| 解説 | クライアントを登録していない場合が考えられます。                            |
| 対策 | ネットワーク ライセンス 管理モジュールのインストール手順書を参照し、クライアントを登録してください。 |
- ◆ **ライセンスに空きがありません (ネットワークライセンスタイプ)**
- |    |  |
|----|--|
| 解説 | 同時稼働数以上に稼働した場合が考えられます。                     |
| 対策 | 同時稼働数内で稼働してください。                           |
| 解説 | 変換途中にアベンド等のトラブルが発生し、ライセンスが空いていません。         |
| 対策 | 全てのクライアントのモジュールとライセンスマネージャーを停止し、再起動してください。 |

◆ **3D 要素が存在します**

解説 データ内に 3D データが存在します。元図データと形状が変わる場合があります。

---

## 2) 図面 ⇒ IGES 変換

- ◆ **変換正常終了**  
解説 変換処理が、正常に終了しました。
- ◆ **IGES ファイルの書き込みに失敗**  
解説 その IGES のディレクトリーが、存在しない場合が考えられます。  
対策 ディレクトリーの存在を確認してください。  
解説 その IGES のディレクトリーにアクセス権がない場合が考えられます。  
対策 ディレクトリーのアクセス権に WRITE 権を付けてください。
- ◆ **メモリー不足**  
解説 メモリーが動的に確保できなかった場合が考えられます。  
対策 再起動して、変換実行してください。再度、このエラーメッセージが表示された場合は、弊社に問い合わせてください。
- ◆ **変換内部エラーX (Xは任意)**  
解説 変換途中で、エラーが発生した場合が考えられます。  
対策 弊社に問い合わせてください。
- ◆ **MC 区画が存在しない**  
解説 設定した MC 区画が不適切です。  
対策 存在する MC 区画を設定してください。
- ◆ **MC グループが存在しない**  
解説 設定した MC グループが不適切です。  
対策 存在する MC グループを設定してください。
- ◆ **MC ユーザーが存在しない**  
解説 設定した MC ユーザーが不適切です。  
対策 存在する MC ユーザーを設定してください。
- ◆ **図面が存在しない**  
解説 図面が存在しない場合が考えられます。  
対策 図面が存在するか、確認してください。



- 
- ◆ **図面が大きすぎます**

解説	図面のモデル・サイズが大きすぎます。
対策	<i>Mcadam *.sys</i> 中の図面のモデル・サイズの値を確認し、システム管理者と相談し、この値を変更してください。
  
  - ◆ **プロテクトが見つかりません (スタンドアロンタイプ)**

解説	プロテクトをセットしていない場合が考えられます。
対策	プロテクトをセットしてください。
  
  - ◆ **ライセンス環境に異常があります (ネットワークライセンスタイプ)**

解説	ネットワーク環境が正しくない場合が考えられます。
対策	ネットワーク環境に異常がないか、ネットワーク管理者に相談してください。
  
  - ◆ **ライセンスがありません (ネットワークライセンスタイプ)**

解説	プロテクトのライセンス数が0の場合が考えられます。
対策	弊社に問い合わせてください。
  
  - ◆ **クライアント登録されていません (ネットワークライセンスタイプ)**

解説	クライアントを登録していない場合が考えられます。
対策	ネットワーク ライセンス 管理モジュールのインストール手順書を参照し、クライアントを登録してください。
  
  - ◆ **ライセンスに空きがありません (ネットワークライセンスタイプ)**

解説	同時稼働数以上に稼働した場合が考えられます。
対策	同時稼働数内で稼働してください。
解説	変換途中にアバンド等のトラブルが発生し、ライセンスが空いていません。
対策	全てのクライアントのモジュールとライセンスマネージャーを停止し、再起動してください。
-

## 9. 付録

## 1) 対応要素一覧表

## (1) IGES ⇒ 図面変換表

No	IGES の要素		MC の要素	コメント
	ENTITY No	FORM No		
1	0 Null	-		
2	100 Circular arc	0	円・円弧 (CIRCLE)	
3	102 Composite curve	0	円・円弧 (CIRCLE)	
4	104 Conic arc	1-3	楕円・楕円弧 (ELLIPSE)	
5	106 Copious data	1-3	折線スプライン (LINER SPLINE)	
6	106 Copious data	11-13,63	折線スプライン (LINER SPLINE)	
7	106 Centerline	20-21	直線 (LINE)	
8	106 Section	31-38	直線または円・円弧 (LINE)/(CIRCLE)	
9	106 Witness line	40	寸法線用直線 (ANNOTATION LINE)	
10	110 Line	0	直線 (LINE)	
11	112 Parametric spline curve	0	スプライン (SPLINE)	
12	116 Point	0	点 (POINT)	
13	124 Transformation matrix	0,1,10-12		
14	126 Rational B-spline curve	0-5	スプライン (SPLINE)	近似式計算のため、形状 が異なる場合がある。
15	130 Offset curve	0	オフセット・スプライン (OFFSET SPLINE)	
16	202 Angular dimension	0	角度寸法 (ANGLE DIMENSION)	
17	204 Curve dimension		曲線(円周)寸法 (CURVE DIMENSION)	
18	206 Diameter dimension	0	直径寸法 (DIAMETER DIMENSION)	
19	208 Flag note	0	注記 (NOTE)	
20	210 General label	0	注記 (NOTE)	
21	212 General note	0-8,100-102,105	注記 (NOTE)	

No	IGES の要素		MC の要素	コメント
	ENTITY No	FORM No		
22	213 New general note		注記 (NOTE)	
23	214 Leader(Arrow)	1-12	シンボルの矢印(拡張) (ARROW)	
24	216 Linear dimension	0	水平寸法または垂直寸法または平行寸法 (HORIZONTAL DIMENSION)/ (VERTICAL DIMENSION)/ (PARALLEL DIMENSION)	
25	218 Ordinate dimension	0	水平累進寸法または垂直累進寸法 (HORIZONTAL DATUM DIMENSION)/ (VERTICAL DATUM DIMENSION)	
26	220 Point dimension	0	法線寸法 (NORMAL DIMENSION)	
27	222 Radius dimension	0	半径寸法 (RADIUS DIMENSION)	
28	308 Subfigure definition	0	子図 (DETAIL)	
29	314 Color definition	0	カラー (COLOR)	
30	402 Group	1	子図 (DETAIL)	
31	402 Dimensioned Geometry	13	子図 (DETAIL)	
32	404 Drawing	0-1	投影図 (VIEW)	
33	408 Singular subfigure instance	0	配置子図 (DITTO)	
34	410 View	0	投影図 (VIEW)	

## (2) 図面 ⇒ IGES 変換表

No	MC の要素	IGES の要素		コメント
		ENTITY No	FORM No	
1	点 (POINT)	116 Point	0	
2	直線 (LINE)	110 Line	0	
3	折線 (MULTILINE)	106 Copious data	1	
4	円・円弧 (CIRCLE)	100 Circular arc	0	始点=終点の場合は、円と判断。
5	楕円・楕円弧 (ELLIPSE)	104 Conic arc	1-3	
6	スプライン (SPLINE)	112 Parametric spline curve	0	
7	オフセット スプライン (OFFSET SPLINE)	112 Parametric spline curve	0	
8	折線スプライン (LINEAR SPLINE)	106 Copious data	1-3	
9	円錐曲線 (CONIC)	112 Parametric spline curve	0	
10	配置子図 (DITTO)	408 Singular subfigure instance	0	
11	ユーザー・シンボル (SYMBOL)	308 Subfigure definition geometry	0	設定に依存する。 ユーザー・シンボルの文字記号は MC Ver 3.0 以上で、サポート。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMB+追番』になる。
12	シンボル・フォント (FONT)	308 Subfigure definition geometry	0	設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMB+追番』になる。
13	小丸 (DOT)	100 Circular arc	0	
14	矩形 (RECTANGLE)	106 Copious data	1	
15	三角形 (TRIANGLE)	110 Line	0	
16	十字 (RIVET)	110 Line	0	
17	矢視 (SECTION LINE)	110 Line	0	
18	デーラム記号 (DATUM)	308 Subfigure definition geometry	0	MC Helix V4R3 以上で、サポート。 設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMM+追番』になる。

No	MC の要素	IGES の要素		コメント
		ENTITY No	FORM No	
19	データム・ターゲット (DATUM TARGET)	308	0	MC Helix V4R3 以上で、サポート。 設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMM+追番』になる。
		Subfigure definition		
		geometry		
20	面指示記号 (SURFACE FINISHING)	308	0	MC Helix V4R3 以上で、サポート。 設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMM+追番』になる。
		Subfigure definition		
		geometry		
21	切断線	106	1	MC Helix V4R3 以上で、サポート。
		Copious data		
22	矢印 1 (ARROW-1)	214	1-12	
		Leader(Arrow)		
23	矢印 2 (ARROW-2)	214	1-12	
		Leader(Arrow)		
24	矢印群 (COMPOSITE ARROW)	214	1-12	
		Leader(Arrow)		
25	拡張矢印 (ARROW)	214	1-12	MC Helix V4R3 以上で、サポート。
		Leader(Arrow)		
26	デルタ (DELTA)	308	0	設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMM+追番』になる。
		Subfigure definition		
		geometry		
27	矢印付きデルタ (DELTA)	308	0	設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMM+追番』になる。
		Subfigure definition		
		geometry		
28	風船 (BALLOON)	308	0	設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMM+追番』になる。
		Subfigure definition		
		geometry		
29	矢印付き風船 (BALLOON)	308	0	設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMM+追番』になる。
		Subfigure definition		
		geometry		
30	テキストライン (TEXTLINE)	308	0	設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMM+追番』になる。
		Subfigure definition		
		geometry		
31	破断線 2 (BREAKOUT)	308	0	MC Ver 3.1 以上で、サポート。 設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『SYMM+追番』になる。
		Subfigure definition		
		geometry		

No	MC の要素	IGES の要素		コメント
		ENTITY No	FORM No	
32	寸法 (DIMENSION)	216	0	設定に依存する。 MC Helix V4R3 以上で、サポートした寸法を含む。 308 で出力する場合は、子図名が『SUNP+追番』になる。
		Linear dimension		
		202	0	
		Angular dimension		
		222	0	
		Radius dimension		
		206	0	
		Diameter dimension		
		204	0	
		Curve dimension		
		214	1-12	
Leader(Arrow)				
geometry				
308	0			
Subfigure definition				
33	注記 (NOTE)	212	0	
General note				
34	寸法線用直線 (ANNOTATION LINE)	106	40	
Witness line				
35	寸法線用円弧 (ANNOTATION ARC)	106	40	
Witness line				
36	寸法線用注記 (ANNOTATION TEXT)	212	0	
General note				
37	パターン1 (AREA FILL)	308	0	設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『PATN+追番』になる。
		Subfigure definition		
geometry				
38	パターン2 (AREA FILL)	308	0	設定に依存する。
		Subfigure definition		
geometry				
39	部品 (PARTS)	308	0	MC Ver 3.0 以上で、サポート。設定に依存する。 一般部品(LOCAL PARTS)、標準部品(GLOBAL PARTS)のみサポート。 共有部品は、MC Helix V4R3M1 以上でサポート。 308 で出力する場合は、子図名が『PART+追番』になる。
		Subfigure definition		
		geometry		
40	子図 (DETAIL)	308	0	設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『KOZU+追番』になる。
		Subfigure definition		
		geometry		
41	ビュー (VIEW)	410	0	設定に依存する。 308 で出力する場合は、子図名が『VIEW+追番』になる。
		View		
		geometry		
		308	0	
Subfigure definition				

## (3) カラー対応表 (IGES ⇒ 図面)

IGES カラー番号		MC カラーテーブル番号	
番号	説明	番号	説明
1	黒	9	ブルー
2	赤	3	レッド
3	緑	1	グリーン
4	青	10	ダークブルー
5	黄	4	イエロー
6	ピンク	5	マゼンタ
7	水色	2	シアン
上記以外	-	0	無指定色

注) TYPE 314 を定義している場合は、R.G.B で変換します。また、120 色を超える場合は、無指定色になります。

## (4) カラー対応表 (図面 ⇒ IGES)

MC カラーテーブル番号		IGES カラー番号	
番号	説明	番号	説明
0	無指定色	0	無指定色
1	グリーン	3	緑
2	シアン	7	水色
3	レッド	2	赤
4	イエロー	5	黄
5	マゼンタ	6	ピンク
6	ライトグリーン	3	緑
7	ライトレッド	2	赤
8	オレンジ	2	赤
9	ブルー	4	青
10	ダークブルー	4	青
11	ダークパープル	4	青
上記以外	-	-	TYPE 314 で変換

## (5) 線種対応表 (IGES ⇒ 図面)

## a) 線幅

Directory Section(以降、DS といいます)の線幅フラグの値を、Global Section(以降、GS といいます)の 16 番目の値で割ることにより線幅が決まります。

DS と GS の関係	MC 線幅
$DS/GS \geq 2/3$	太線
$DS/GS \geq 1/3$	中線
$DS/GS < 1/3$	細線

## b) 線種

IGES 線種番号	MC 線種
1 (実線)	実線
2 (破線)	破線 1
3 (二点鎖線)	二点鎖線
4 (一点鎖線)	一点鎖線
5 (点線)	ステッチ
上記以外	実線



## (6) 線種対応表 (図面 ⇒ IGES)

## a) 線種 1





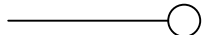

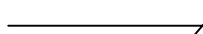

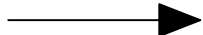
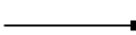
MC 線種	IGES 線種番号	線幅番号		
		太線	中線	細線
実線	1 (実線)	3	2	1
破線	2 (破線)		2	1
一点鎖線	4 (一点鎖線)			1
二点鎖線	3 (二点鎖線)			1
NC ライン	1 (実線)		2	
破断線	1 (実線)		2	
上記以外	1 (実線)			

## b) 線種 2




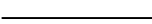
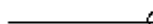















MC 線種	IGES 線種番号	線幅番号		
		太線	中線	細線
実線	1 (実線)		2	
破線 1	2 (破線)		2	
破線 2	2 (破線)		2	
破線 3	2 (破線)		2	
破線 4	2 (破線)		2	
破線 5	2 (破線)		2	
破線 6	2 (破線)		2	
一点鎖線 1	4 (一点鎖線)			1
一点鎖線 2	4 (一点鎖線)			1
一点鎖線 3	4 (一点鎖線)			1
一点鎖線 4	4 (一点鎖線)			1
一点鎖線 5	4 (一点鎖線)			1
二点鎖線 1	3 (二点鎖線)			1
二点鎖線 2	3 (二点鎖線)			1
二点鎖線 3	3 (二点鎖線)			1
セットバック 1	3 (二点鎖線)			1
セットバック 2	3 (二点鎖線)			1
マッチ	3 (二点鎖線)			1
ステッチ	2 (破線)		2	
破線 <sup>注1)</sup>	2 (破線)		2	
跳び破線 <sup>注1)</sup>	2 (破線)		2	
点線 <sup>注1)</sup>	2 (破線)		2	
一点鎖線 <sup>注1)</sup>	4 (一点鎖線)			1
二点鎖線 <sup>注1)</sup>	3 (二点鎖線)			1
一点短鎖線 <sup>注1)</sup>	4 (一点鎖線)			1
二点短鎖線 <sup>注1)</sup>	3 (二点鎖線)			1
三点短鎖線 <sup>注1)</sup>	3 (二点鎖線)			1
一点長鎖線 <sup>注1)</sup>	4 (一点鎖線)			1
二点長鎖線 <sup>注1)</sup>	3 (二点鎖線)			1
三点長鎖線 <sup>注1)</sup>	3 (二点鎖線)			1
一点二短鎖線 <sup>注1)</sup>	4 (一点鎖線)			1
二点二短鎖線 <sup>注1)</sup>	3 (二点鎖線)			1
三点二短鎖線 <sup>注1)</sup>	3 (二点鎖線)			1
シグザグ線 <sup>注1)</sup>	1 (実線)		2	
上記以外	1 (実線)		2	

注 1) MC Helix V5R2 以上で対応します。

## (7) 寸法矢印形状対応表 (IGES ⇒ 図面)

IGES	図面
 NO ARROWHEAD	 無印
 WEDGE	 矢印
 CIRCLE	 丸印
 SLASH	 斜線
 FILLED TRIANGLE	 塗潰し矢印

## (8) 寸法矢印形状対応表 (図面 ⇒ IGES)

図面	IGES
 無印	 NO ARROWHEAD
 丸印	 CIRCLE
 丸印+	 CIRCLE
 斜線	 SLASH
 斜線+	 SLASH
 矢印	 WEDGE
 45° 矢印	 WEDGE
 60° 矢印	 WEDGE
 10° 矢印	 WEDGE
 塗潰し矢印	 FILLED TRIANGLE

## (9) 特殊記号変換表 (図面 ⇒ IGES)

lower upper		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		0	MC								
	IGES										
1	MC										
	IGES										
2	MC						{	!			
	IGES						7B	21			7C
3	MC				°						
	IGES				5C						
12	MC				φ					□	φ
	IGES				6E,74					81A0	6E,74
13	MC			∇		△	~		¢	◎	
	IGES			819C		81A2	8160		8191	72	
14	MC		○		⊥		∠		°	\$	±
	IGES		819B		81DB		81DA		DF	24	23
15	MC	√	-	Ω	μ		∞	÷	×	∠	∥
	IGES	81E3	2D	83B6	7C		8187	8180	78	81DA	8161
23	MC										±
	IGES										23
24	MC					φ		≤	≥	Ω	
	IGES					6E,74		63	64	83B6	
25	MC			μ	°						
	IGES			7C	A1						

注) 上位・下位は 10 進コード、IGES は 16 進コード。

## (10) 注記(212)フォントコード (IGES ⇒ 図面)

フォント コード	変換可能な文字(ASCII)コード					
	変換前コード	変換後表記	変換前コード	変換後表記	変換前コード	変換後表記
<b>1001</b>	65	○	6E	φ	72	◎
<b>1002</b>	24	.	2A	±	62	÷
	63	≦	64	≧	65	△
	67	×	69	≠	6F	Σ
	70	↑	71	↓	72	→
	73	←	74	φ	75	θ
	76	γ	77	ψ	78	ω
	79	λ	7A	α	7B	δ
	7C	μ	7D	π	7E	—
<b>1003</b>	23	±	5C	° (度)		
	6E	φ	7E	° (度)		

上記の表にないコードは、変換しません。

## (11) 注記(212)フォントコード (図面 ⇒ IGES)

変換可能な文字(ASCII)コード						フォント コード
変換前表記	変換後コード	変換前表記	変換後コード	変換前表記	変換後コード	
φ	6E	◎	72			<b>1001</b>
° (度)	5C	φ	74	±	23	<b>1002</b>
≦	63	≧	64	μ	7C	

上記の表にないコードは、9. 1) (9) 特殊記号変換表 (図面 ⇒ IGES)を参照してください。

## 2) 制約事項

## (1) IGES ⇒ 図面変換

**a) CIRCLE**

CIRCLE の始点角、終点角が同一の場合は、作成しません。

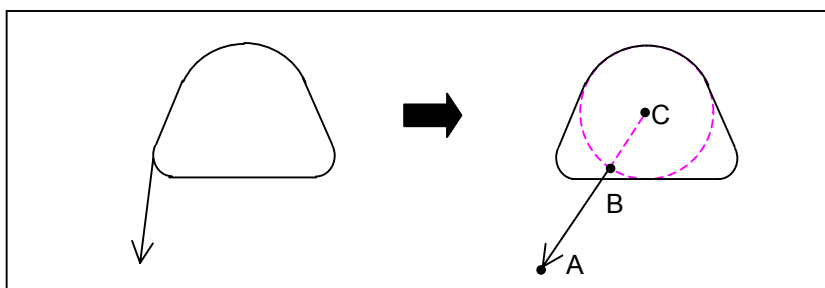
**b) カラー**

120 色まで対応します。

## (2) 図面 ⇒ IGES 変換

**a) シンボル**

MC の図面互換モードが、V3.0 倍精度の場合、デルタの矢印は、A を始点、B を終点とした形状になります。(下図参照)



- ・ A は、矢印の始点。
- ・ B は、A と C を結んだ直線と内接円との交点(矢印の終点)。
- ・ C は、デルタの内接円の中心。

**b) カラー**

120 色まで対応します。

## 3) acciges.sys の設定

## a) ファイル概要

このファイルは、IGES ➡ 図面変換時および、図面 ➡ IGES 変換時に使用します。

変更不可項目は、絶対に変更しないでください。変更した場合は、保証できません。

また、このファイルは、エディターにて編集してください。

## b) ファイル設定内容

acciges.sys の 1 例を以下に示します。

ELEMS=100,110,120,130,150,200,210,300,400,500,510,540,550 ,950,960,961,1000,1050,1060,1061,1080,1100,1110,1200,1210 ,1220,1230,1240,1250,1260,1270,1280,1300,1301,1302,1303,1 304,1305,1306,1307,1308,1309,1310,1311,1312,1313,1314,131 5,1316,1317,1318,1319,1320,1321,1322,1323,1324,1325,1326, 1327,1328,1329,1330,1331,1332,1333,1334,1335,1336,1337,13 38,1339,1340,1341,1342,1343,1344,1345,1346,1400,1404,1500 ,1501,1502,1503,1510,1511,1520,1521,1530,1540,1550,1560,1 570,1600,1601,1700,1710,1720,2300,2301,2302,2303,2304,230 5,2306,2307,2308,2309,2310,2311,2312,2313,2314,2315,2316, 2317,2318,2319,2320,2321,2322,2331,2332,2335,2336,2338,23 39,2340,2341,2342,2343,2344,2345,2346	---	①
VWSEL=1000	-----	②
VWPAV=1	-----	③
DITTO=0	-----	④
COLOR=1	-----	⑤
WEIGT=16	-----	⑥
STYLE=0	-----	⑦
TRACEACC=0	-----	⑧
TRACEAPI=0	-----	⑨

(a) 設定内容(英数半角文字で設定します)

① ELEMS=【要素番号】

◆変更不可項目

変換対象要素番号を設定しています。

- ② VWSEL=【ビューID】 ◆変更不可項目  
変換対象ビューIDを設定しています。
- ③ WPAV=【フラグ】 ◆変更不可項目  
ビュー/パーパーデータフラグを設定しています。
- ④ DITTO=【フラグ】 ◆変更不可項目  
子図処理フラグを設定しています。
- ⑤ COLOR=【フラグ】 ◆変更不可項目  
カラー指定フラグを設定しています。
- ⑥ WEIGT=【フラグ】 (IGES ➡ 図面変換のみ)  
線種・線幅等の割り付けをするかどうかを設定します。

値	説明
1	線幅を割り付ける。
2	ラインカラーを割り付ける。
4	先端形状を割り付ける。
8	線種を割り付ける。

この設定は、各設定項目を組み合わせることができます。(複数選択可)  
組み合わせて設定する場合は、各項目の設定値を合計したものを設定してください。

例) 設定値 1 と 2 の設定項目を組み合わせる場合は、“WEIGT=3”と設定してください。

- ⑦ STYLE=【フラグ】 ◆変更不可項目  
線種指定フラグを設定しています。
- ⑧ TRACEACC=【フラグ】 ◆変更不可項目  
ACCESS core のトレースのフラグを設定しています。
- ⑨ TRACEAPI=【フラグ】 ◆変更不可項目  
IGES-C 実行中のトレースのフラグを設定しています。

注) 必ずファイルは左詰めで入力し、途中にスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。



## 4) igesenv.sys の設定

## a) ファイル概要

このファイルを、エディターにて編集してください。

## b) ファイル設定内容

igesenv.sys の 1 例を以下に示します。

DUPSKIPGT=0	-----	①
IGSNAMEMAX=0	-----	②
IGSNAMETOP=0	-----	③
DUPSKIPMK=0	-----	④
DRWSORT=0	-----	⑤

## (a) 設定内容(英数半角文字で設定します)

## ・ IGES ➡ 図面変換

## ① DUPSKIPGT=【フラグ】(バッチモード版のみ)

図面名が重複した場合に、上書きするかどうかを設定します。

値	説明
1	上書きしない。
上記以外	上書きする。

## ・ 図面 → IGES 変換

## ② IGSNAMEMAX=【文字数】（対話モード版のみ）

IGES 名の最大文字数を設定します。

値	説明
1~20	設定した文字数で IGES 名を表示する。
上記以外	デフォルトの文字数で IGES 名を表示する。

## ③ IGSNAMETOP=【先頭桁数】（対話モード版のみ）

MC 図面名の先頭桁数を設定します。

値	説明
1~20	設定した先頭桁数以降の MC 図面名を IGES 名のデフォルトとして使用する。(例を参照)
上記以外	デフォルトの桁数で MC 図面名を IGES 名のデフォルトとして使用する。(例を参照)

例 1) IGSNAMETOP=3 と設定すると、次のようになります。

MC 図面名	IGES 名
1234567	34567.igs

例 2) IGSNAMEMAX=2、IGSNAMETOP=3 と設定すると、次のようになります。

MC 図面名	IGES 名
1234567	34.igs

## ④ DUPSKIPMK=【フラグ】（バッチモード版のみ）

IGES 名が重複した場合に、上書きするかどうかを設定します。

値	説明
1	上書きしない。
上記以外	上書きする。

⑤ DRWSORT=【フラグ】（対話モード版のみ）  
MC 図面リストの表示順序を設定します。

注) V4R1, V4R2 用は、DRWSORT=0,1,2 のみ有効となります。

値	説明
0	アクセスコアで取得した順番で表示する。
1	図面名の昇順で表示する。
2	図面名の降順で表示する。
3	作成日の昇順で表示する。
4	作成日の降順で表示する。
5	更新日の昇順で表示する。
6	更新日の降順で表示する。
上記以外	アクセスコアで取得した順番で表示する。
上記以外	デフォルトで作成する。

注) 必ずファイルは左詰めで入力し、途中にスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。

## 5) トラブル調査依頼について

IGES-C の変換、インストールおよび操作におけるご質問、またはお問い合わせは、

〒804-0003

北九州市戸畑区中原新町 3-3

TEL : 093-882-0226

FAX : 093-882-0422

E-mail : cad@asasystems.co.jp

株式会社 エーエスエー・システムズ

サポートセンター 宛へ

トラブル調査をご依頼いただく場合は、お手数ですが以下の内容をお送りください。

- ・変換対象図面(MC 図面)
- ・変換対象データ(IGES)
- ・トラブルレポート(最終頁のレポートに記入してください)

